

兵庫県但東町

日本・モンゴル民族博物館年報

第2号（平成10年度）

Annual Report of the JAPAN MONGOLIA Folk Museum
No.2 (for the fiscal years of 1998))

あいさつ

当館は但東町町制施行40周年、モンゴルとの国際交流10周年を記念して建設されたもので、町民の教育・文化の発展に寄与するとともに、町外からの交流者に対しても正しい国際理解学習の地域拠点としての博物館運営に努めてまいりました。平成8年11月3日に開館し、これまでの2年5カ月間で8万5千人以上の入館者を迎えることができたことを感謝いたしております。

平成10年度の事業としましては、企画展は「父さんの小さかった頃」「人、東井義雄・但馬に生きた情熱の教育者」「但馬国府と但馬国分寺展～発掘調査25年の成果～」 「第3回但東の文化財」など、地域の歴史や文化財に親しんでもらうことに主眼をおいた企画を心掛けました。文化財保存事業においても文化財パトロール3回、緊急発掘調査1件、文化財標柱2カ所設置、文化財調査報告書「但東の庚申塔」の発行というように地域の文化財保護にも努めてきました。11月3日には開館2周年を迎え、記念事業として但東町とも親交の深い滋賀県立大学ナムジム教授の「モンゴルの過去と現在（上・下）」を出版し、モンゴルの百科全書的なものとして好評を得ているところであります。

また、平成10年度3月議会において、慎重審議の結果、博物館北側駐車場に（仮称）伝承文化体験交流館の建設が認められました。平成11年度は具体的な建設に向けて動き出すことになり、博物館が単なる見学だけに終わることなく、体験学習の場としても活用を進めていくところです。

これら平成10年度の博物館活動記録として『博物館年報第2号』を発刊することになりました。今後も、当館の足跡を詳しく記録にとどめ、発展の糧とするために継続的に発行していきたいと考えております。

今後とも、展示内容の充実と、新しい企画による各種事業のさらなる充実、地域に根ざした国際交流の博物館としてより多彩な活動を展開していく所存ですので、今後とも皆様のなご一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成11年4月

日本・モンゴル民族博物館

館長 福田 芳郎

目 次

I. 平成10年度概要	4
II. 沿革	4
1. 建設経緯	
2. 博物館建設対策室	
III. 展覧事業	5
1. 常設展	
2. 企画展	
3. 特別陳列	
IV. 調査研究事業	10
1. サンショウウオの調査	
2. 寺谷遺跡発掘調査	
3. 但東の庚申塔	
V. 資料収集保存事業	12
1. 寄 贈	
2. 購 入	
3. 資料の貸出	
4. 資料の燻蒸	
5. 文化財標柱設置	
6. 文化財パトロール	
VI. 普及教育事業	13
1. 普及行事	
2. 講師派遣	
3. 広報活動	
4. 出版活動	
VII. 国際交流事業	16
1. モンゴルとの国際交流	
2. 外国からの来館者	
VIII. 管理運営	18
1. 組織・職員	
2. 予算	

3. 博物館協力会
4. 入館者利用状況
5. 瑕疵・補修工事
6. 博物館日誌抄
7. 来館者の声より（抜粋）
8. 施設概要
9. 利用案内
10. 交通案内



博物館全景

I. 平成10年度概要

当館の事業を大きく分けると、①博物館事業・②国際交流事業・③文化財保護事業の三つに大別できる。

博物館事業としては、常設展や企画展などの展示活動、調査研究活動、資料収集保存活動、普及教育活動などがある。常設展は部分的に変更しているが、全体の構成に大きな変化はない。これまでガラスの展示サインであったが、見学者に押されて破損したこともあり、見学者保護のために木製サインに全部変更した。展示説明パネルも不備な点に関して追加し、見学者に対する情報提供を促した。牧民の住居であるゲル内部に試着用の民族衣装4着を準備し、体験用として好評であった。

企画展を年4回開催したが、本年度はいずれも但東町や但馬をテーマにしており、地域文化の理解促進に努めてきた。特に第6回企画展「人・東井義雄・但馬が生んだ情熱の教育者」は東井義雄の人物像にスポットをあてたもので、遺徳顕彰会である「白もくれんの会」、東井義雄記念館長宇治田透玄氏のご協力を得て、当館職員渡辺が企画立案したものである。人物をテーマにした企画展は難しいといわれるが、東井義雄の教えを受けた関係者が全国からお越しいただき、好評裏に終えることがで

きた。「父さんの小さかったとき」は昭和20～40年頃の民俗資料を使い、懐かしい教室で遊びなどを体験できるよう工夫された。「但馬国府と但馬国分寺展」と「大地からよみがえった祖先の足跡」は日高町と但東町の考古資料を取り扱ったものである。

国際交流ではモンゴルからの博物館研修生を8月と3月に各1名を招聘した。モンゴルからの要人訪問も多く、モンゴル国文部省次官、モンゴル文化基金総裁、駐日モンゴル大使、モンゴル大会議議員、県知事、中学生の短期招聘というように、通年を通してモンゴル国からの来訪者が絶えない状況であった。開館2周年記念事業として、モンゴルを紹介する「モンゴルの過去と現在」を出版した。3月には大岸主事をウランバートル市に派遣し、モンゴル国文部省、モンゴル文化基金、国立博物館との文化交流について今後の在り方を検討した。

文化財保護関係では老朽化している但東町民俗資料館の移設問題に取り組み、平成11年度事業として「(仮称)伝承文化体験交流館」の建設として動き出した。また但東町相田の但馬安国寺跡周辺において排水工事に伴って蔵骨器が発見され、緊急発掘調査1件を実施している。

II. 沿革

1. 建設経緯

但東町は、十数年にわたってモンゴル国と国際交流を深めてきた。平成6年に但馬1市18町を会場にした「但馬・理想の都の祭典」が開催される中、但東町では10月4日から11日までモンゴルから41名を招聘し、「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム」事業を実施した。シンポジウムのイベントとして元モンゴル国日本大使館員金津匡伸氏（当時は青森県八戸市在住）がモンゴル在勤中に収集した民族資料500点を「モンゴル民具・民芸品展」として公開し、好評を得たところであった。その後、但東町の要請により家族とも但東町に移住される中で、モンゴル民族資料5000点、東北地方の考古資料5000点の約1万点にわたる資料を但東町に寄贈いただいた。

平成8年は但東町町制施行40周年にあたり、記念事業としてこれまで地道に続けてきたモンゴルとの交流の核施設として博物館の建設を決定した。平成7年4月には

博物館建設対策室が庁内に設置され、最大の目標は町制施行40周年を迎える但東町の記念催しに全力を挙げて開館することであった。地域住民の文化創造の拠点として機能できるよう、または新しいさまざまな交流がいつそう進展するような施設作りを目指して協議を重ねてきた。そして博物館は地域住民の「知的憩いの場」でありたいと願い、平成8年11月3日(日)文化の日に開館した。

【経緯概要】

- | | |
|---------|---|
| 平成6年10月 | 「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム&音楽祭in但東～モンゴル」においてモンゴル民具民芸品展を開催 |
| 12月 | モンゴル民族資料を金津匡伸氏より寄贈 |
| 平成7年4月 | 日本・モンゴル民族博物館建設対策室を設置 |
| 7月 | 建設位置を中山地内に決定 |
| 11月 | 建築工事入札、契約議決 |
| 12月 | 起工式 |

- 平成8年5月 展示工事着手
- 8月 建築工事完成
- 10月 展示工事完成
- 11月 竣工式、一般公開

2. 博物館建設対策室

博物館構想が発表された平成7年4月1日から平成8年11月3日の開館までが、日本・モンゴル民族博物館の開設

準備期間に当たる。博物館建設事業は町をあげての一大プロジェクトだったことから、博物館を管理運営していく教育委員会と協議しながら、町長部局が所管して進められた。

平成7年4月に助役を室長とした博物館建設対策室が設置され、基本方針、用地の取得、建築設計、展示計画、運営計画について検討を重ねていった。その後の人事異動に伴い、対策委員に若干の変更はあったが大筋での博物館計画に変更はなかった。

Ⅲ. 展覧事業

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、A棟のたんとうの森、B棟の東アジアの歴史・チベット仏教、C棟のモンゴル草原の暮らしと文化から構成されている。

■ たんとうの森

但東町をイメージしたコーナーでは、但東町の伝統や歴史を紹介。町の9割を占める森林を象徴するように、人工樹木5本を設置している。図書コーナーでは関連書籍、資料等が自由に閲覧できる。また、昔懐かしい囲炉裏端（電気炉）のある和室では休憩や交流の場所として利用できる。

■ 東アジアの歴史

大陸の文化は、民族どうしの接触が繰り返され、それがお互いの文化に影響し融合したことで、独自の文化が生まれた。ここではゴビ砂漠から発掘された恐竜の卵や、中国オールドス地方の考古資料を中心に、モンゴル大帝の樹立、元の時代、近代モンゴルまでの資料などを紹介。

■ モンゴル草原の暮らしと文化

牧民の移動式住居である「ゲル」の展示をはじめ、衣・食・住を中心に生活の全般にわたる資料を展示。自然とともに生き、遊牧生活を営むモンゴルの人々の原寸大の暮らしを紹介。

- | | |
|------------|-----------|
| ① モンゴルの食文化 | ② モンゴルの衣装 |
| ③ 生活の中の道具 | ④ 移動式住居ゲル |
| ⑤ モンゴルの狩猟 | ⑥ ナーダム |
| ⑦ モンゴルの装飾品 | ⑧ 草原の遊び |
| ⑨ 草原の音楽 | ⑩ 草原の芸術 |

■ モンゴル草原のいのり

モンゴル民族の宗教は、シャーマニズムなどと呼ばれる自然宗教と外来宗教である仏教に大別でき、その仏教美術は主にチベットの影響を多分に受けている。展示では、モンゴル仏教の仏像、タンカ、仏具、経典、宗教楽器などの

資料や、モンゴルのダ・ヴィンチと呼ばれるザナバザルの影響を受けた仏教美術も紹介。

(2) 常設展の手直し・追加

■ 各展示コーナーのサインがガラスであったため、破損して見学者に危害が及ぶことを回避するために木製サインに替えた。



(新しい木製サイン)

■ 駐日モンゴル大使からのメッセージ

当館開館2周年を記念して、フレルバートル駐日大使から当館あてにメッセージを頂戴し、大統領メッセージに並べて掲示した。

近年、モンゴルと日本の交流・協力は急速に発展し、特に地方間の直接協力が一層拡大していることは喜ばしいことです。

但東町はモンゴル国と長年に渡り積極的な交流を行ってきましたが、この交流・協力の発展には日本・モンゴル民族博物館が大きく貢献してきました。

モンゴルと日本の国民間の交流が拡大し、互いの認

識への感心と必要性がさらに増大している今日、両国の相互理解の深化と友好関係の強化、そして日本におけるモンゴル国を具体的に広報するにあたり、日本・モンゴル民族博物館が今まで同様に貢献していくことを確信しています。

日本・モンゴル民族博物館が今後一層、拡大・発展していくことを祈願いたします。

駐日モンゴル国特命全権大使

ソドブジャムツ・フレルバートル

東京都 平成10年11月25日



■ プレーリードッグの全滅

開館当初より中庭で草原の動物プレーリードッグを飼育展示してきた。平成10年9月22日の台風9号は町内に大きな爪痕を残した。当館においても、中庭で屋外飼育しているプレーリードッグ7匹が全滅してしまった。当日は集中豪雨のような状態だったために地下深く埋設してあった水抜きがうまく処理できず、雨水が地上まであふれてしまった。このため地下深くまで潜っていたプレーリードッグが水死してしまった。



(3) 職員による解説

当館の職員は現在6名で、見学者の要望に応じて解説補助の仕事が随時対応している。

数名から十数名程度の団体については各展示室を通しての解説を行っている。通路が狭いこともあり20数名以上の団体には一般的なガイダンスや各コーナーでの個別的な質問への対応が主体となっている。



(福田館長による館内の説明)



(屋外での一般ガイダンス)

2. 企画展

平成10年度には次の4回(第5回~第8回)の企画展を行った。

■ 第5回企画展『父さんの小さかったとき』

平成10年4月2日~7月21日(見学者数:12069人)

展示室全体を昭和30~40年代の教室に見立てて、当時の落書きそのままの木製机や椅子、教卓、黒板を設置した。両親の少年・少女時代の学校や家庭での生活を子どもたちに紹介し、親子の触れ合いを深めてもらおうと企画したものである。昔懐かしい遊び道具や生活用品約300点を「遊び」「暮らし」「学校」のテーマに分けて展示した。企画展関連行事として、第2・4土日曜日に展示室で駄菓子屋の開店を再現して博物館クイズラリーに参加しながら、駄菓子と交換した。昔の遊びコーナーとして、竹トンボ作りなどを随時、展示室で行った。

【展示構成】

① 学校

日高町、但東町内に残されていた木製机・椅子・黒板・教卓・オルガン・ストーブなどを借用して教室を再現した。当時の文房具や教科書、ランドセル、弁当箱なども一緒に展示した。

② 遊び

和田山町立郷土歴史館から伝統的な遊び道具一式を借用して、当時の遊びについて解説した。

③ 暮らし

但東町民俗資料館から生活資料を移動して展示し、四季に応じた道具や雪国ならではの除雪用具なども展示した。



(第5回企画展 展示室でのおもちゃ作り)



(第5回企画展 展示状況)

【企画展行事】

企画展行事として下記のとおり実施した。

第1回 駄菓子屋さん (参加者315人)

5月31日(日) 10:00~15:00

講師：福田和幸氏

第2回 駄菓子屋さん・竹トンボ作り (参加者210人)

6月21日(日) 10:00~15:00

講師：淀逸郎氏、村尾和敏氏

第3回 駄菓子屋さん (参加者46人)

7月5日(日) 10:00~15:00

講師：清水克浩氏

第4回 駄菓子屋さん・竹鉄砲作り (参加者100人)

7月19日(日) 10:00~15:30

講師：淀逸郎氏

【平成10年6月14日付 神戸新聞但馬総局屋敷宏明氏の「デスク回線」から抜粋】

古ぼけた木の机に教卓やオルガン。展示室の中に、懐かしい教室の様子が再現された。出石郡但東町の「日本・モンゴル民族博物館」で行われている「父さんの小さかったとき」と題した展示。「今の子どもたちの父親が、子どもだったころ」がテーマ。昭和20年代後半から30年代にかけて、ちょっと昔の暮らしぶりが紹介されている。炭の入ったアイロンや洗濯板など生活用品から食事、遊び、学校の様子を知る品々が並ぶ。「父さん……」とあるのがみそ。とかく父親の存在の軽さがいわれるなか、家族で訪れ、父親にガイド役となってほしいというわけだ。昨年来、少年をめぐる暗い事件が相次いでいるおりから、父親の子ども時代を材料に家族で対話をしてもらうのが狙い。筆者にとっても、懐かしいものばかり。あのころ、日本はまだ豊かではなかった。高度成長に向かって進み、多くの人が田舎から都会へ出ていった。それからの発展はめざましい。そして今、日本はいい国になったのだろうか。などと考えていると、展示室のこんな文章が目に入った。「昔はみんないきいきしていた。みんな一生懸命だった。自然からいろいろ教わった。何にでも体当たりして学んだ。もう一度そんなころのような気持ちになって笑いたい」。あのころに帰りたい……とは、思わないものの、同博物館のメッセージが素直に受け入れられた。

■ 第6回企画展『人・東井義雄・但馬が生んだ情熱の教育者』

平成10年7月23日~10月6日 (見学者数：6255人)

但東町にはすでに東井義雄記念館があり、教育者としてはあまりにも有名であるが、宗教者、あるいは詩人としての東井義雄、ひいては「人間・東井義雄」を紹介する目的で企画したものである。東井義雄は但東町佐々木の東光寺の長男として生まれた。32年に豊岡尋常小に教師として着任、72年に八鹿小校長で退職するまでの40年間にわたり、命の大切さや心の教育の重要性を説きながら自らも実践。「村を育てる学力」など優れた著書を多数出版し、文部省の教育功労賞など数多くの賞を受賞した。書斎の再現、講演記録、遺墨、愛用の品々、未刊の原稿、未公開資料等を中心に展示。本展では数多くの方たちにご協力いただき、記して感謝申し上げます。

(敬称省略) 宇治田透玄、東井富美代、東井浴子、西垣勉、福田静剛、武知憲男、椿野博

【展示構成】

① 生涯

誕生から高橋中学校勤務までと、八鹿小学校校長~晩年までの二部構成で展示した。



(第6回企画展)



(第6回企画展 見学風景)

② 友・家族の詩

「おかげさまのどまんなか」のところで謳った詩を、椿野博氏、草野信一氏の書画で紹介。

③ わたくし

寺の長男として生きてきた先生の思いを書斎の再現と、ご自身の回顧で紹介。

【平成10年12月15日付「白もくれん」当館渡辺律子のコメントより抜粋】

〈企画展「人・東井義雄」を終えて〉

7月23日から10月6日まで、日本・モンゴル民族博物館で、第6回企画展「人・東井義雄 但馬が生んだ情熱の教育者」が開催された。当館は平成8年11月にオープンして以来、既に5回の企画展を開催してきた。この間、但東の文化財、縄文人の暮らしと文化、昭和30年代の学校の再現等をしてきたが、今回初めて人物を取り上げることとなった。そこで、青少年の係わる凶悪な犯罪が急増し、しきりに心の教育が叫ばれている昨今であることや、但東町に生まれ、生涯但馬に生き、命の教育を求め続けた人物であるということで東井先生に焦点をあてることにした。ご存じのとおり、但東町にはすでに東井記念館があり、教育者東井義雄はあまりにも有名だが、宗教者として、あるいは詩人としての先生を、広くは「人」としての先生を紹介できるような展示にしたいと考え、今日でも生き続けている教えや詩、写真を展示室にいっぱい集めた。博物館の企画展

ということで、先生の遺徳顕彰というよりも、自由な発想のもとに先生の紹介をさせていただいた。展示スペースも「生涯」「友・家族の詩」「わたくし」と名付け、それぞれのテーマごとに行った。まず「生涯」は、誕生から高橋中学校勤務までと、八鹿小学校校長時代～晩年までの二部に分けた。先生誕生の時が記してある父義證氏の日記から始まり、未刊原稿等の未公開資料も含め、教育者としての先生の一生をたどった。また、「友・家族の詩」では、「おかげさまのどまんなか」のところで謳った先生の詩を、椿野博氏、草野信一氏の書画で紹介。

そして、「わたくし」では、寺の長男として生きてきた先生の思いを書斎の再現と共にご自身の回顧で紹介した。それぞれのテーマにあわせ各所には、大きな写真や分かりやすい先生の言葉や、イラストを用いた。中学生にも分かるということが大前提としてあったが、どうしても難しくなりがちで特に資料の解説には迷い悩んでしまった。自分ですべて準備してきた最終段階で行き詰ってしまった。

往々にして、博物館の展示の基本はモノであり、パネルはあまり読んでもらえないのが通説のようだ。が、今回の企画展はそれを多少なりとも覆したように思えた。多くの方がケースの前に足を止め、じっとパネルの一つ一つの言葉を読んでいた。あるときには、小学生2年生ぐらいの子が二人ほどで、『〇は大きく×は小さく』だって、とパネルの言葉を読んでいるのに会い、何とも言えず嬉しくなった。

その他、展示してある言葉や詩、著書についての照会も多く、また「大きな写真がたくさんあり、先生にお会いできた感じで嬉しかった」とか「これまで見たことのない写真や資料を見ることができてとても良かった」「感動した」等たくさんの感想を聞かせていただいた。私自身、この企画展を担当したものの、読んだ文献はしれたものであり、先生の数多くの著者に届くわけではない。あくまでも、これらを通し先生の生きざまや様々な思いの一片を紹介したに過ぎないと思う。が、一人でも多くの方に、東の斎藤(喜博氏)、西の東井と言われるような「人」が、この地に居られたということを知っていただき、難しい教育論などなしにして「ここを育てる教育・いのちの教育」とは、どういものかを、ほんの少しでも考えていただくきっかけになったなら幸いである。

■ 第7回企画展『但馬国府と但馬国分寺展～発掘調査25年の成果～』

平成10年10月8日～平成11年1月19日

(見学者数：6924人)

日高町教育委員会から全面的な協力と指導で開催することができた。但馬国分寺跡の発掘調査が1973年に開始されてから25年、但馬国府の推定地である祢布ヶ森遺跡の発掘調査も翌年から行われ、今日まで数多くの貴重な発見があ



(第7回企画展 見学風景)



(第8回企画展)

った。今回は、その成果を紹介しながら古代但馬の社会や文化にふれていただきたいと企画されたものである。但馬国分寺や発掘調査の作業風景など再現した縮尺20分の1の模型を展示し、当時の様子から発掘調査の様々まで、分かりやすい展示に心掛けた。12月6日に「発掘調査が語る但馬国府と但馬国分寺」と題し、発掘調査を担当されている日高町教育委員会の加賀見省一氏の記念講演会を実施した。

【展示構成】

- ① 但馬国府を探る
- ② 国分寺建立と但馬国分寺
- ③ 但馬国分寺の井戸跡復元
- ④ 発掘調査の方法と道具

■ 第8回企画展『但東の文化財・大地からよみがえった祖先の足跡』

平成11年1月21日～4月13日（見学者数：6591人）

3回目の但東の文化財をテーマにした企画であるが、これまでの圃場整備によって出土していた考古資料を再整理して展示した。発掘された考古資料で文献などの記録では知り得ない歴史を、発掘された考古資料を活用し、ふるさと但東を正しく理解してもらう企画として開催。

【展示構成】

- ① ふるさと但東の歴史

木村西ヶ奥遺跡から出土した後期旧石器時代の尖頭器から近世墓地から出土した陶磁器などを展示した。また、表採された意味不明の資料については「これは何でしょう？」コーナーで、見学者の方からユニークな意見を多く聞くことができた。

- ② 後天神遺跡

但東町後地区に所在している縄文時代早期から近代に至る遺跡である。

- ③ 水石朽ち木仏像群

当館収蔵庫で保管している平安時代前期の水石朽ち木仏像群（22体）を理解していただくため、常設展示の5体と合わせて27体全てを公開した。



(第8回企画展 展示状況)

- ④ 但東の経塚

町内でこれまでに見えられた経筒外容器と今回新たに個人蔵のものを含めて展示した。和鏡、蔵骨器、かわらけなどの伴資料も同時に展示した。

3. 特別陳列

たんとうの森では定期的に特別陳列としてミニ企画展を実施している。本年度は第5回「縄文の暮らし」・6回「オリエントの世界」を実施したが、「オリエントの世界」については当面の間、常設展示として公開していく予定である。

第1回 但東の考古資料

但東町民俗資料館所蔵の考古資料と個人所蔵の資料を借用して展示した。後期旧石器時代の尖頭器から14世紀の丹波焼甕までを紹介した。

第2回 但東の民俗資料

但東町民俗資料館所蔵の生活資料40点を紹介した。

第3回 縄文土器

当館所蔵の縄文土器35点を早期から晩期までの土器編年を紹介。

第4回 郷土玩具

青森県八戸市在住の杉本旭氏から今渕コレクションの郷土玩具を一括で寄贈をいただいた。北海道から沖縄までの郷土玩具109点を紹介。



(「オリエントの世界」展示状況)



(福田館長寄贈の古代オリエント資料の一部)

第5回 縄文の暮らし

当館所蔵の縄文時代資料を中心に、「食」をテーマに展示した。

第6回 オリエントの世界

当館福田芳郎館長より寄贈いただいた古代オリエントの土器・土偶、ローマガラス、ヒッタイト文化の石碑、ペルシア陶器など30点を紹介。但東町は但馬ちりめん

を織っていた歴史から「シルクロード計画」として町おこしを今日まで実践してきた。当館においても、日本・中国・モンゴル、そしてオリエント文化を追加することによって、シルクロードのさらなる理解につなげたいと考えている。当面、常設で展示していく。

IV. 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられて、最新の情報を盛り込んだ展示、質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。今回は厳密に調査研究を主目的としたものではなく、緊急調査の範疇に含まれるものではあるが、博物館事業の一環として紹介する。

1. サンショウウオの調査

平成10年10月29日に当館職員にて中山地区において動けなくなっているオオサンショウウオ1匹を保護した。体長・幅・体重や体の斑紋、傷などを観察して、翌30日に捕獲地そばの資母体育館に隣接した太田川に放流した。また、平成11年3月18日に博物館敷地内にてギフサンショウウオを捕獲し、竹野町公民館の本庄四郎氏を經由して京都大学松井先生に標本を送付した。平成7年より町内におけるサンショウウオに関する基礎データを継続的に収集している。

2. 寺谷遺跡発掘調査

(1) 調査に至る経過

平成10年10月5日、兵庫県文化財保護指導員西尾孝昌氏(八鹿高校教諭)から、但東町相田で排水溝工事に伴い骨

壺が発見されているとの連絡を受けた。骨壺は但東町相田の安国寺で保管しているとのことで、10月6日に確認した結果、中世と考えられる陶器であることを確認した。現地踏査の結果、相田字寺谷地内において中世の墓地と考えられる集石された遺構数基を確認した。その後、骨壺の出土した土地所有者の井上氏(関宮町)と小林氏に確認した結果、大小の集石を伴い骨壺を埋めたことが判明した。排水溝工事は一旦中断していただき、井上氏と小林氏の土地境界線上に集石遺構2基を確認しており、工事前に緊急発掘調査を行うこととなった。



(放流されるオオサンショウウオ)

(2) 調査要項

- ① 調査目的 土地造成に伴う発掘調査
- ② 発掘調査地の所在地 出石郡但東町相田字寺谷
- ③ 調査期間 緊急調査 平成10年11月9日～11月13日
- ④ 調査面積 100㎡
- ⑤ 調査担当者 (正) 金津匡伸、(副) 大岸勝也
- ⑥ 調査補助員 但東町立但東北中学校2年生
4名(梓野雄治・金津智之・松本浩幸・渡辺玄洋)

(3) 遺跡の位置と調査の概要

寺谷遺跡は、但東町の中央部に位置し、「ログハウス村夏つばきの里」に隣接した地点に所在する。町道日殿相田線沿いに位置しており、南から北側に向けて緩傾斜した台地上に立地している。標高142～148mで、東西約15m、南北約40mの広がりをもつ。今回調査した範囲内に11基の集石を伴ったと考えられる遺構と炭焼き竈1基を確認した。調査はこのうちの集積を伴う遺構1基を発掘した。東西1.5m×南北2.0mの範囲内に大小の石を20cmほど盛り上げ、その下に径2mほどの土壙を有する。土壙の下部に約30cm大の石が円形に囲んでいた。さらにその下部に巨大な石が設置されていたが、人力では取上が困難と判断されたので、この時点で調査を終了した。遺物は土壙の覆土から時期不明の赤褐色を呈した土器片1点のみ出土している。発掘した遺構は骨壺が出土した地点に隣接しており、何らかの関係があるものと想定していたが、現時点での関係は不明である。また、遺跡の南側において、表土から近世～近代にかけての急須状の磁器1個体を検出した。

(4) 発見された資料(骨壺)

遺構の年代を知り得る資料は検出されなかったが、集石遺構を理解するうえで欠かせない骨壺について若干の観察所見をまとめてみた。高さ23cm、径22cm、口径9cmで、口辺部の一部を破損しており、正確な高さは分からない。器形は壺で、壺の肩がグーッと下がった撫で肩になっている。肩部から体部にかけて緑色の木灰釉が流されている。また、肩部にひらがな「の」と「窯印」と考えられるものが線彫りされている。これらの特徴から14～15世紀と考えられる越前焼または丹波焼の壺と考えられる。壺の内部には火葬された骨が納められており、明らかに骨壺に使用したものである。壺内の火葬骨は口辺まで充填されており、何らかの蓋が存在したものと考えられるが、発見することはできなかった。

(5) まとめ

骨壺が発見されたことにより、墓地の存在が想定できたが、実際に発掘した結果は墓地と断定することはできなかった。集石された遺構の状況や土壙を伴うことから墓地の可能性は高い。調査地の付近一帯は但馬安国寺が位置していたと伝えられているが、現在においても旧境内は確定さ

れていない。度重なる火災によって安国寺関係の資料も大半が消失していると考えられるが、かつてこの付近より多数の五輪塔が安国寺に移設されており、現在でも大切に現在の安国寺境内で保管されている。安国寺は但馬安国寺とも呼ばれており、所在地は佐々木荘で、紀伊由良の興国寺開山で知られる無本覚心(法灯国師)を開山としている。但馬国の安国寺に指定され、のち応永2(1395)年以前の段階で諸山に列せられ、官寺となった。近世には大徳寺の末寺となり、延享2(1745)年に編纂された大徳寺の末寺帳には、出石郡宗鏡寺の6カ末寺のひとつとして寺号を見いだすことができる。このように不明な点の多い但馬安国寺であるが、調査地は但馬安国寺に係る遺跡ではないかと推察されるが、今後の調査に待つところが大きい。

3. 但東の庚申塔

但東町には76基の刻像庚申塔が残されており、兵庫県内では淡路南部と但東町に集中している。そのなかでも但東町は群を抜いて多い。昭和50年代より継続的に調査され、但東町の文化財シリーズとして庚申塔を取り上げて報告書を作成した。

V. 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館の最も基本的な機能である。当館は郷土やモンゴルの自然や歴史・文化に関する資料を収集するとともに、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として郷土やモンゴルに関する資料をも収集対象としている。資料の収集は、寄贈・寄託・購入・採集・交換など、さまざまな方法で行っている。

1. 寄贈

(1) 寄贈資料（敬称省略）

- 平成10年 6月25日 うどん箱 黒野重雄（群馬県）
7月20日 オルガン 井上節子（但東町）
7月30日 細石器（新石器時代）
メンドオヨー（モンゴル国文化基金総裁）
8月1日 郷土玩具一式
杉本 旭（青森県八戸市）
10月8日 絵画 椿野 博（城崎町）
10月12日 机・本立 東井浴子（但東町）
11月10日 木製臼
B.バトムフ（モンゴル国ダルハン市）
11月25日 モンゴル・エコマップ
石河信昭（東京都新宿区）
平成11年 1月24日 モンゴル製ベスト
重国明美（大阪市）
1月28日 革製壁掛
バヤルサイハン（モンゴル国バヤンホンゴル県）
3月1日 オリエンタ美術品一式
福田芳郎（但東町）

(2) 図書寄贈者一覧（順不同・敬称省略）

【個人】

梅棹忠夫（国立民族学博物館顧問）、今岡良子、中村俊郎、和田義彦、阿曾一美、二見正憲、葭秋男、霜倉和夫、久保修、石原由美子、藤谷紘一郎、祇園明敏

【兵庫県内】

兵庫県知事公室文書課、兵庫県教育委員会事務局、兵庫県生活文化部環境局、兵庫県立歴史博物館、兵庫県立近代美術館、兵庫県立図書館、兵庫県立人と自然の博物館、辰馬考古資料館、三木市立堀光美術館、龍野市立歴史文化資料館、西淡町教育委員会、加西市教育委員会、赤穂市立歴史博物館、西近畿文化財調査研究所、明石市立文化博物館、西紀・丹南町教育委員会、加東郡教育委員会、加美町教育委員会、上郡町教育委員会、氷上郡教育委員会、八鹿町教育委員会、南淡町教育委員会、佐用郡教育委員会、神崎郡歴史民俗資料館、にしわか経緯度地球科学館、日高町教育

委員会、浜坂町教育委員会、和田山町教育委員会、美方町教育委員会、竹野町教育委員会、植村直己冒険館、新宮町教育委員会、東井義雄遺徳顕彰会

【京都府】

大宮町教育委員会、弥栄町教育委員会、城陽市歴史民俗資料館、京都市考古資料館

三和町教育委員会、大阪狭山市立郷土資料館

【大阪府】

国立民族学博物館、大阪市立自然史博物館、大阪外国語大学

【その他】

八戸市博物館、徳島県立博物館、北海道立北方民族博物館、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、日本ユネスコ協会連盟、山武考古学研究所

【国外】

S.デンベレル氏（モンゴル国ウランバートル市）

2. 購入資料

- | | |
|-----------------|----|
| (1) 馬頭琴（弦楽器） | 3点 |
| (2) トブショール（弦楽器） | 1点 |
| (3) オリエンタ美術 | 3点 |

3. 資料の貸出

- | | | |
|----------------|------|------------------|
| (1) 山形県国際交流協会 | 114点 | 平成10年9月21日～9月24日 |
| (2) 日本モンゴル文化協会 | 42点 | 平成10年11月1日～11月4日 |

4. 資料の燻蒸

平成10年7月13日～16日にC棟展示室を株式会社昭和駆除にてガス燻蒸処理を実施した。燻蒸方法は密閉で燻蒸剤エキボンを使用し、48時間燻蒸した。結果は燻蒸処理後の



（金蔵寺への文化財標柱設置状況）



(蔵雲寺への文化財標柱設置状況)



(文化財調査委員会の視察研修)

テストサンプルから、殺虫殺卵効果、殺カビ効果は100%と財団法人文化財虫害研究所にて判定された。

5. 文化財標柱設置

町内に所在している町指定文化財の標柱を平成10年度事業として2カ所設置した。案内板の設置箇所は金蔵寺（但東町中山）、蔵雲寺（但東町中山）に土地所有者の了解のうえ実施した。

6. 文化財調査委員会

【平成10年度】

第1回 4月13日 文化財調査委員（5人）任命式

会長：宇治田透玄 副会長：武知憲男

委員：森脇博亮、兼井通夫、小田博一

第2回 5月27日 民俗資料館建設、視察研修、文化財パトロールについて討議

第3回 6月3日 視察研修（天津市立歴史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館）

第4回 6月25日 文化財パトロール（高橋地区）

第5回 7月10日 文化財パトロール（合橋地区）

第6回 8月20日 文化財パトロール（資母地区）

第7回 9月7日 視察研修（国立民族学博物館）

Ⅵ. 普及教育事業

1. 普及行事

■ ウィークエンドクラブ

小学校1年から中学校3年までを対象にしたもので、週末に学校を離れてさまざまな体験をしようという事業。平成10年度は4回にわたる年賀状・カレンダー作りを開



(年賀状・カレンダー作り)

催した。

会場：博物館創作室

講師：金津副館長（補佐：井上主事・大岸主事）

第1回 11月22日(日) 15名

第2回 11月29日(日) 12名

第3回 12月6日(日) 13名

第4回 12月13日(日) 9名

■ 企画展講演会

平成9年度は4回の企画展を開催したが、第3回企画展「但馬国府と国分寺展～発掘調査25年の成果～」について、より多くの方に理解を深めていただくために講演会と展示説明会を開催した。

講師：加賀見省一氏（日高町教育委員会）

「発掘調査が語る但馬国府と但馬国分寺」

とき：平成10年12月6日(日)

場所：博物館多目的ホール

参加者：35名



(加賀見講師による講演)

■ モンゴルスライドレクチャー

モンゴルを撮り続けている写真家 大塚知則氏を招き、スライドを使ってモンゴルの遊牧生活を紹介した。

4月25日(土)・26日(日)

第1回 4月25日(土)午後 30人

第2回 4月26日(日)午前 25人

第3回 4月26日(日)午後 35人

■ 馬頭琴コンサート

生のモンゴル文化に触れていただく企画として、本年度は関西で活躍されているシンバヤル氏を招いて、馬頭琴コンサートや草原での暮らしについて楽しく聞かせていただいた。

10月18日(日) 13:30~14:30

博物館多目的ホール

演奏者：シンバヤル氏 (大阪外国語大学大学院生)



(シンバヤル氏による馬頭琴演奏)

■ ゲル宿泊体験

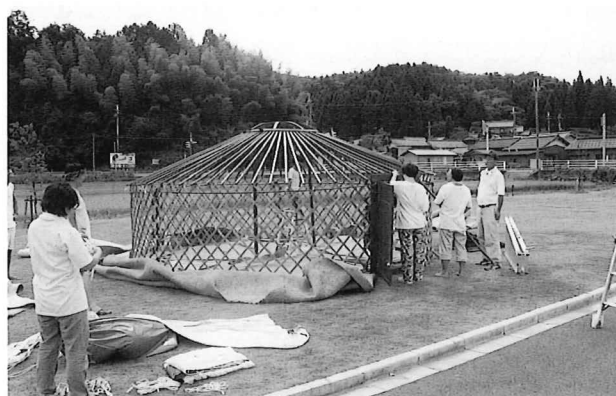
モンゴルの移動式住居ゲルを参加者が組み立てて宿泊体験するという、モンゴル文化理解の一環として2回実施した。博物館の東側芝生広場にゲルを組み立て、隣接した資母体育館を活用しながら体験学習を楽しんだ。組み立ての実技指導は当館大岸主事がこれに当たった。

第1回 8月1日(土)~2日(日)

参加者：大阪市 織田敏秀氏ほか21名



(ゲルの組立・宿泊体験)



(ゲルの組立・宿泊体験)

第2回 8月6日(木)~7日(金)

参加者：全国子供会リーダー、町内小学生79名

■ トライやるウィーク

兵庫県教育委員会の事業として中学生の地域体験学習「トライやるウィーク」で、生徒の希望に応じて博物館体験と発掘調査体験を11月9日(月)から11月13日(金)までの5日間受け入れた。本事業は中学2年生が1週間、学校を離れて地域社会での実体験を通して学習する試みとして本年度より始まった。当館では博物館体験と発掘調査で14名を受け入れた。

(1) 博物館体験

但東北中学校2年(5名) 小西亜希子、沢田知佳、ソブダー、中嶋敦子、新野美緒

博物館体験は但東北中学校の2年生5名であるが、モンゴルからの留学生ソブダーも参加して実施された。職員として森脇博亮、渡辺律子、木村美智子の3名が担当し、開館までの清掃・受付準備・解説補助業務・電話対応などの接客業と博物館業務について研修した。

【参加者の感想文】

本当にいい思い出になりました。解説の仕方や受付の仕方、またお茶の出し方など本当にたくさんのことを学ばさ

せていただきました。解説をしたとき、すごく緊張して全部わたしが言っていたのでもないのにすごくつかれました。モンゴル博物館の皆様、いろいろとご迷惑をおかけして本当にすみませんでした。そして多くの体験をさせてもらい、本当にありがとうございました。

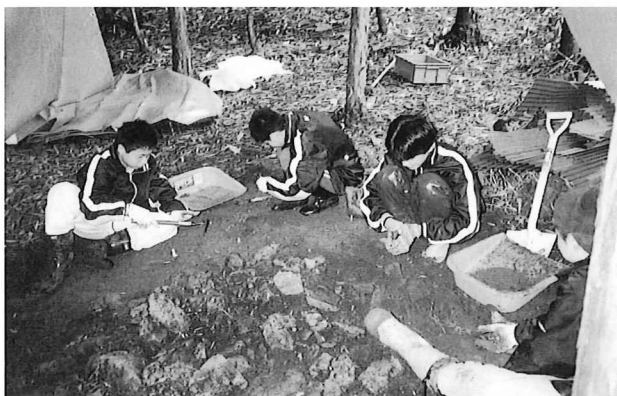


(「トライやるウィーク」による解説補助)

(2) 発掘調査体験

但東北中学校2年(4名) 梓野雄治、金津智之、松本浩幸、渡辺玄洋

但東町相田地区において土地造成中に壺が発見され、ただちに現地で確認した結果、中世における骨壺であることが分かった。壺の中には火葬された人骨が納められており、発見場所の周囲には中世墓と考えられる石組を多数確認した。造成中に発見されたこともあり、どのような状況だったのか不明な点も多く、周囲に点在する石組の性格を把握するために、緊急調査を実施することとした。遺跡が所在している場所から旧安国寺(但馬安国寺)に関する遺跡ではないかと推定されるが、今回の調査により遺跡の性格と今後の保存策を講じるために発掘調査を実施した。実施に当たっては但東北中学校の「トライやるウィーク」参加者を調査補助員として受け入れ、金津と大岸がこれに当たった。



(「トライやるウィーク」による発掘体験)

2. 講師派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣を、月日・担当者・内容・(依頼者)の順に記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるのと観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

【平成10年度】

- | | | |
|--------|------|--------------------------------------|
| 4月7日 | 金津匡伸 | 『モンゴルとの国際交流』
豊岡円山川ロータリークラブ |
| 6月4日 | 金津匡伸 | 『モンゴルとの国際交流』
兵庫県公立高等学校教頭協会総会 |
| 6月9日 | 金津匡伸 | 『手作りのまちづくり』
うれしの学園生涯大学 |
| 6月15日 | 金津匡伸 | 『すてきに生きる・地域からの国際交流』
日高町女性ライフセミナー |
| 6月23日 | 金津匡伸 | 『モンゴルとの国際交流』
兵庫県数学教育会 |
| 10月3日 | 金津匡伸 | 『モンゴルの風』
西宮市立西宮高等学校市民講座 |
| 10月23日 | 金津匡伸 | 『モンゴルの風』
但馬地区県立学校PTA連合会 |
| 11月20日 | 金津匡伸 | 『地方からの国際化』
日高経友会 |
| 11月25日 | 金津匡伸 | 『モンゴルの暮らしと文化』
兵庫県立豊岡南高等学校 |
| 12月2日 | 金津匡伸 | 『モンゴルの魅力』
但馬農業共済事業運営協議会 |
| 1月21日 | 金津匡伸 | 『但東の文化財』
但東町ライオンズクラブ |
| 1月24日 | 金津匡伸 | 『モンゴル国の現状と将来』
震災復興モンゴル・中国支援シンポジウム |
| 2月10日 | 金津匡伸 | 『人との出会い』
兵庫県教育研修所高校教員研修講座 |
| 3月17日 | 金津匡伸 | 『馬頭琴ものがたり』
久美浜町立田村小学校 |

3. 出版活動

(1) 館外からの原稿依頼を受けて行った雑誌や機関紙等を記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるのと観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。また、平成9年4月から月刊亜細亜倶楽部の紙面を借りてモンゴルに関する記事を当館提供として金津が執筆している。

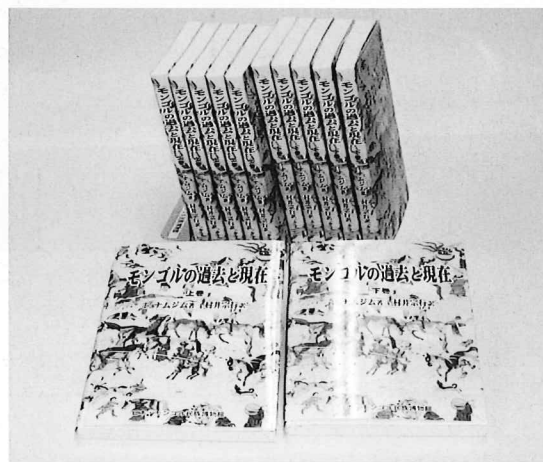
①金津匡伸 『一品鑑賞・内モンゴル女性頭飾り』

Information & Culture 神戸新聞情報文化懇話会
平成10年8月10日

②金津匡伸 『世界に目を向けた小さな博物館』

- 神戸新聞「論」 平成10年12月7日
- ③渡辺律子『人・東井義雄を終えて』
会報白もくれんN0.9 平成10年12月15日
- ④亜細亜倶楽部1998 4月号 平成10年4月10日
「チューリップとモンゴル博物館」「自由市場ザハ」
- ⑤亜細亜倶楽部1998 5月号 平成10年5月10日
「乳製品アラカルト」「モンゴル土産は京都で」
- ⑥亜細亜倶楽部1998 6月号 平成10年6月10日
「幻の魚イトウ」「卵いりませんか」
- ⑦亜細亜倶楽部1998 7月号 平成10年7月10日
「日本によく似た四季があります・モンゴルの気候」
- ⑧亜細亜倶楽部1997 8月号 平成9年8月10日
「モンゴルには貴重な地下資源が眠っています」
- ⑨亜細亜倶楽部1997 9月号 平成9年9月10日
「レッド・データブック登録の貴重野生動物を守れ」
「民博で大モンゴル展開催中」
- ⑩亜細亜倶楽部1997 10月号 平成9年10月10日
「モンゴル草原でキノコ狩り」「ウランバートル食料事情」
- ⑪亜細亜倶楽部1997 12月号 平成9年12月10日
「国民に対してかけがえの無い損失・モンゴル民主化の星逝く」

- ⑫亜細亜倶楽部1999・2月号 平成10年2月10日
「オーツで祝うお正月ツェガーン・サル」
- ⑬亜細亜倶楽部1999・3月号 平成10年3月10日
「車がなければ始まらない・ウランバートル交通事情」
- (2) 「モンゴルの過去と現在」出版
博物館開館2周年記念事業として、モンゴルの著名な研究者T.ナムジム氏（滋賀県立大学教授）が書かれたモンゴルを知る百科全書「モンゴルの過去と現在（上・下）」（訳・村井宗行氏）を700部出版した。



(出版された「モンゴルの過去と現在」)

VII. 国際交流事業

1. モンゴルとの国際交流

【第1期（昭和60年～平成6年10月）】交流の始まり

但東町は文化年間より、但馬ちりめんの本場として京都西陣と絹織物を通して、盛んに「人・物・文化」の交流がされていました。しかし過疎・高齢化に悩むなかで、昭和58年から都市と農村との交流により町の活性化を図る「但東シルクロード計画」を織物の産地にちなみ推進してきた。

昭和60年より大阪外国語大学モンゴル学科の遊牧地域研究開発チームによる「中山間地域の農村調査」を受け入れ、町内における農村の実態調査が実施された。その後、農家や畜産家、村おこしリーダー等の係わりのなかからモンゴル料理講習会、モンゴルの子どもたちとの作品交流、モンゴル政府関係者の訪問へと進展した。そして赤花化工株式会社の本田重美氏のゴビプロジェクト参加から、平成6年10月に開催された「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム」開催までの期間を第1期として位置付けている。

【第2期（平成6年11月～）】新しい交流

「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム」終了以降に始まっ

た但東町独自の国際交流を第2期として位置付けている。町民使節団の派遣、モンゴル学生の招聘事業、モンゴル博物館の建設、モンゴル芸術家支援、モンゴルへの援助活動というように文化交流に主眼をおいた新しい国際交流を展開している。

【国際交流年譜】

平成2年度

- 6月 日本モンゴル共同第1次ゴビ・遊牧地域研究調査に赤花化工株式会社社長の本田重美氏が参加。

平成3年度

- 8月 3名の遊牧民エルデネビリック、バットバヤル、ボルドスフが農業と工業技術研修生として来町（10カ月間）。

平成4年度

- 4月 モンゴル国民族発展省副大臣、対外関係省総合政策局長等の政府要人の来町。
元モンゴル国立大学長、ゴビプロジェクト事務局長等らと共に兵庫県知事を表敬訪問。
- 9月 モンゴルの天幕住居ゲル5基がモンゴル国より寄

贈された。

平成5年度

- 9月 町長、町議会議長、町教育委員等町民8名が第1回但東町日本モンゴル友好使節団として6日間モンゴルを訪問した。第1副首相、科学教育省大臣ら政府要人を表敬訪問するかたわら、南ゴビ地域の郡長や農牧業組合長等とも交流を重ね、友好を深めた。
- 3月 モンゴル国から寄贈されたゲルを保管する「モンゴルゲルセンター・オルドン（宮殿）」を建設して一般に公開。

平成6年度

- 7月 但東町国際交流協会（会員130名）を設立。
- 10月 但馬地域1市18町を会場に「但馬・理想の都の祭典」が開催され、但東町では10月4日から11日までの8日間「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム&音楽祭」を開催。モンゴルから41名を招聘し、モンゴルのゴビ砂漠地帯の村おこしの方向を明らかにし、日本海を囲む広範な地域と人々との連携をめざす「環日本海地域住民圏構想」などを提案した。
- 12月 青森県在住の元在モンゴル国日本大使館員の金津匡伸氏から「但東町とモンゴルとの交流発展のために」とモンゴル国で収集した民族資料5000点を含む1万点を但東町に寄贈。
- 3月 金津匡伸氏が青森県八戸市から家族ぐるみで但東町に転入。

平成7年度

- 4月 日本モンゴル民族博物館建設対策室を役場内に設置。
- 7月 町議会で日本モンゴル民族博物館建設を可決。
- 8月 「第2回但東町日本モンゴル友好使節団」として町議会議員を団長として町民15名が首都ウランバートル市を中心に訪問。文化交流や遊牧体験を行った。
モンゴルの11才児童プーチェが資母小学校に3カ月の短期留学。
- 10月 金津氏寄贈のモンゴル民族資料5千点を一般公開。
- 12月 自治省・外務省後援の「モンゴルを通じたふるさとづくり事業」により、モンゴルの地域リーダー（教育福祉関係者）8名が来町、ホームステイにより滞在。
モンゴルからの長期（1年）研修生T・バヤラー1名、短期（3カ月）研修生エルデネビリック、バットバヤル2名来町。
日本モンゴル民族博物館の起工式。

平成8年度

- 5月 モンゴル森林火災への支援物資毛布200枚を送付。
- 6月 長期研修生の家族来町（妻子2カ月半滞在）。
資母小学校1年にモンゴルからのザヤー2カ月の体験入学。
- 7月 モンゴル森林火災に対する義援金を町民に呼びかけ、総額130万円を駐日モンゴル大使館を通じてモンゴル国へ送付。
- 8月 資母小学校6年生3名がモンゴル国を訪問。
モンゴルから短期留学生2名（中学生）招聘
- 10月 モンゴル国立民族歴史博物館前館長I.ルハグワスレン氏を招聘。
- 11月 日本・モンゴル民族博物館オープン
- 1月 モンゴルから1年の長期研修生U.テムーレンが来町。

平成9年度

- 7月 商工会青年部がモンゴルの歌姫ソロongoを夏まつりに呼び、モンゴルのステージを実施。
モンゴルから3カ月の短期研修生ムフツェツェグさんが来町。
- 8月 モンゴルの中堅画家D.ウラタナサンを招聘し、博物館で創作活動を支援。
「第3回但東町日本モンゴル友好使節団」として奥田町長を団長として13名がモンゴルを訪問し、中学生招聘者の面接、孤児院への激励訪問、日本文化の紹介、遊牧体験など多彩な交流活動を実施した。
モンゴルから1年の長期研修生T.ダライバヤルが来町。
- 3月 駐日モンゴル国大使館からフレルバートル特命全権大使、ジグジット一等書記官が本町視察のため来町。モンゴルに衣類30箱および町民からの募金を送付。

平成10年度

- 8月 モンゴルから短期留学生2名（中学生）招聘
モンゴルから博物館研修生ビャンバラグチャー招



（モンゴルからの留学生を囲んで）

聘（2ヶ月間）

- 11月 モンゴル百科全書「モンゴルの過去と現在」を当館より出版
- 1月 モンゴル文部省文化財センターのルハグワスレン氏の娘マンドハイを高橋小学校5年生に編入（3ヵ月間）
フレルバートル駐日大使、ゲレルチュローン大会議議員、バヤンホンゴル県知事の視察
- 3月 博物館職員大岸勝也主事をモンゴルに研修派遣

- 7月30日 モンゴル国文部省 バットエルデネ文部次官
モンゴル文化基金 メンドオヨー総裁
ツァツァラット職員
国立民族学博物館ルハグワスレン外来研究員
- 9月13日 内蒙古民族師範学校講師 挪布其
- 1月28日 駐日モンゴル大使館フレルバートル大使
モンゴル大会議 ゲレルチュローン議員
バヤンホンゴル県 バヤルサイハン知事
- 3月13日 バヤンホンゴル県 サランゲレル研修生
- 3月29日 モンゴル大会議 ビャンバドルジ議員



(大岸主事とモンゴル文部大臣との会談)

バヤンホンゴル県より中学教師サランゲレルさんを博物館研修生として招聘
 モンゴル国立大学日本語学科ムフツェツェク先生ご一家の訪問
 モンゴル大会議議員の外務省「モンゴル・オピニオンリーダー視察」として受入



(駐日大使・国会議員・知事の視察)



(ビャンバドルジ議員の視察)

2. 外国からの来館者

【平成10年度】

- 5月7日 米国オレゴン州インザウッドハイスクール14名
- 7月17日 山形大学大学院生
ジャンチブ・ガドバドラフ氏

VIII. 管理運営

1. 組織・職員（平成11年3月31日現在）

(1) 組織



(2) 職員

館長	福田芳郎
副館長	金津匡伸
主事	大岸勝也
非常勤嘱託職員	森脇博亮（但東町文化財調査委員兼務）
嘱託職員	渡辺律子
嘱託職員	木村美智子（旧姓加藤）

(3) 事務分掌

福田芳郎	博物館活動事業の推進
金津匡伸	博物館の管理運営、博物館の普及・広報活動、資料の収集・保管、資料の展示（常設・企画）、資料の調査研究、資料の説明、他博物館との連携活動
大岸勝也	博物館活動（講習会、教室、展示会等）、各種団体・機関との連絡調整、公民館との連携活動、博物館協力会、国際交流
森脇博亮	民俗資料・民俗資料館の管理運営、文化財調査委員会、文化財の調査・維持管理
渡辺律子	歳出歳入予算及び経理、博物館の庶務
木村美智子	入館者の受付・案内、公文書の経理、館内清掃に関すること

2. 予算の概要

【博物館運営費内訳】

予算は当初予算額で、給料・職員手当・共済費等は含まれていない。

《平成10年度（単位：千円）》

[博物館] 31037千円

①博物館運営費《22471》

旅費	1001
需要費	14214（消耗品費1327、印刷製本費1959、光熱水費8328、修繕費2600）
役務費	1883（通信運搬費804、保険料1079）
委託料	3614
使用料及び賃借料	1219
備品購入費	500
負担金補助及び交付金	21
公課費	19

②企画展費《3816》

報償費	116
需要費	3700（消耗品費500、パネル・レプリカ製作費3200）

③博物館活動費《4250》

報償費	620
需要費	3430（消耗品費175、印刷製本費3255）
使用料及び賃借費	200

④資料館建設調査費《500》

報償費	200
旅費	300

[文化財] 2222千円

①文化財調査委員会費《276》

報酬	141
旅費	115
需要費	20

②埋蔵文化財調査費（110）

需要費 110

③民俗資料館管理費（179）

報償費 10
需要費 169

④文化財調査保存費（1657）

報償費 159
旅費 143
需要費 1280（消耗品費455、印刷製本費525、標柱説明板設置費300）

3. 博物館協力会

博物館協力会は当館が位置する資母地区の住民から「いつまでも美しい建物にしよう」という声上がり、加藤廣己氏と塩川剛三氏の呼びかけで、平成9年2月10日に発足した。平成10年の活動内容は以下のとおり。

◎平成10年役員（任期：平成10年1月1日～12月31日）

会長 塩川剛三 常任幹事 渡辺毅 早水宏
幹事 7名 役員 7名
顧問 8名

◎平成10年活動内容

1月25日	博物館講演会出席
2月23日	協力会総会
3月21日	博物館敷地内の芝生草取り
3月23日	駐日モンゴル大使歓迎レセプション出席
4月7日	但東ライオンズクラブよりテント寄贈
4月11日	特産物販売
4月18日	特産物販売
6月6日	花植え・芝生草取り
6月7日	仮設テントによる特産物販売(11月29日終了)
7月5日	芝生草取り・隣接河川の清掃
7月10日	教育委員会より物産販売所建設用地借用許可
7月26日	芝生草取り
8月2日	敷地内の除草作業
8月21日	町より物産販売所建設補助金決定
9月8日	芝生草取り
10月10日	来館者へ如布神楽を披露
11月8日	植栽保護作業 協力会総会・懇親会

4. 入館者利用状況

平成8年11月3日に開館してから2年5カ月が経過した。累計で85575名の方に見学して頂いた。

平成10年度の内訳は下記のとおりであるが、利用者数31034名で有料が23560名、無料が7474名である。但東町民の博物館利用は3386名で全体の9.16%程度とそれほど

多くはない。明石海峡大橋の開通に伴い、5月以降は利用者数も大きく減少することになった。最終的に前年度比20%の減少になった。

また、雪の多い但馬というイメージから、一般利用者

の冬季における利用率が極端に低くなる傾向にあるが、平成10年度は大手バス会社との利用契約により若干の増加につながっている。

【平成8年度（開館日：123日）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
町民								1507	464	361	407	646	3385
一般								2409	1052	960	1173	2545	8138
高大								26	28	19	20	159	252
小中								183	37	103	96	367	786
その他								3000	1	19	63	159	3242
計								7125	1581	1462	1759	3876	15803
1日平均								297	69	58	73	144	128

【平成9年度（開館日：307日）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
町民	762	445	404	492	530	259	251	255	240	261	212	337	4448
一般	4251	3262	3100	1898	2882	2085	2232	2736	1172	833	1153	1666	27270
高大	45	61	33	17	172	38	14	12	6	18	15	145	576
小中	436	418	109	149	544	213	147	102	32	66	39	199	2454
その他	359	610	245	973	372	173	204	448	96	125	137	248	3990
計	5853	4796	3891	3529	4500	2768	2848	3553	1546	1303	1556	2595	38738
1日平均	234	178	150	136	167	106	110	137	67	54	65	96	126

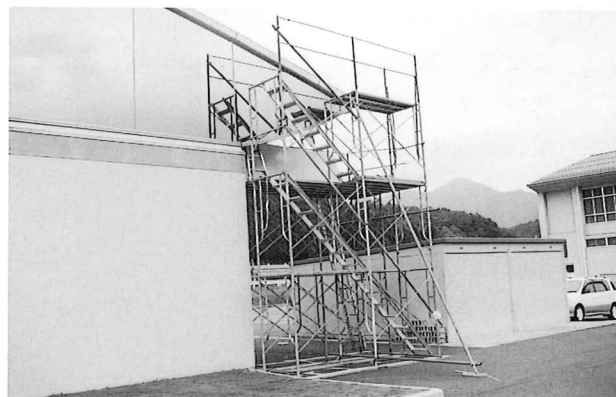
【平成10年度（開館日：307日）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
町民	450	283	263	286	466	318	289	322	223	98	133	255	3386
一般	4712	1719	1173	1051	1607	1120	1582	2271	935	1727	2307	1213	21417
高大	42	30	11	54	266	97	10	24	7	5	12	73	631
小中	561	152	41	66	322	43	36	65	29	37	33	127	1512
その他	569	612	252	284	367	490	337	414	122	173	185	283	4088
計	6334	2796	1740	1741	3028	2068	2254	3093	1316	2040	2670	1951	31034
1日平均	235	104	67	76	112	83	83	119	57	85	111	75	101

5. 瑕疵・補修工事

■ C棟カーテンウォールの破損

C棟北側のカーテンウォール正面右端（異形ガラス）が8月に破損した。旭硝子株式会社大阪支店によって調査が実施され、下辺ガラス小口に取付け時の傷が発見された。ガラスエッジ強度が低下したところに、熱応力が経年変化で加わったことによる複合要因破損と特定され、破損ガラスの取り替えを実施した。



（C棟カーテンウォールの修理）

■ 軒先からの雨漏り

B棟屋根からの雨漏りで壁面が汚損した。屋根唐草部分のシールが寒暖の差により伸縮し一部が切れたため漏水したものと判明。シールの打替えおよび、汚損した壁面の塗替えを実施した。



(雨漏りの修理)

■ 車庫の移築

当館C棟北側に設置している車庫が、2月の大雪により車庫側面が大きく破損した。大屋根からの落雪が原因であるが、支柱が折れており修理困難な状況であるため、車庫をB棟とC棟の間に縮小して移設した。



(移築した車庫)

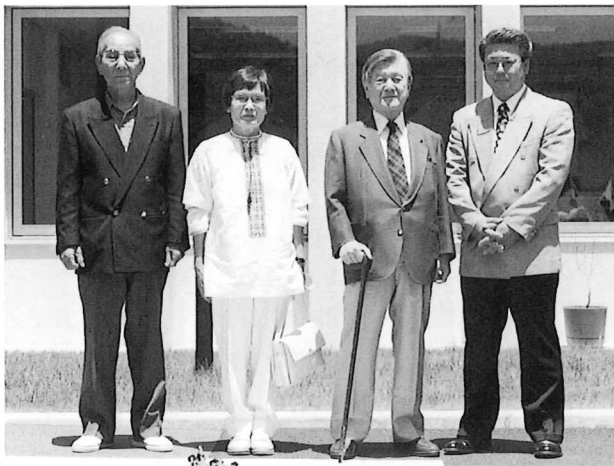
6. 博物館日誌抄

(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

- 4月1日 第5回企画展展示替え作業
4日 北爪照夫赤穂市長視察
5日 徳島県立博物館高島芳弘主任学芸員視察
12日 姫路科学館家永善文館長視察
作家森村誠一ご夫妻来館
13日 第1回文化財調査委員会
15日 日本の鬼の交流博物館村上政市館長視察、日高町職員視察5名視察
16日 モンゴル情報誌「しゃがあ」西村幹也氏来館
17日 加藤美智子さん結婚式
21日 国土庁地方振興局過疎対策室長三宅義彦氏視察
財団法人過疎地域問題調査会副部長嶋行信氏視察
兵庫県市町振興課副課長京雅幸氏視察
22日 読売新聞企画展を取材
24日 兵庫県選挙管理委員会5名視察
27日 但東町新任・転任教職員研修
28日 合橋小学校5・6年生校外授業
29日 出石グランドホテル42名視察研修
30日 館内清掃、業者による消防点検
5月3日 スーホの白い馬の会2名視察
5日 FM Coo-CooLo2名取材
7日 米国オレゴン州インザウッドハイスクール14名視察
山東町教育委員会・梁瀬中学校20名校外授業、旅行雑誌るるぶ取材
8日 氷上町立東小学校5年生42名校外授業
10日 博物館協会による除草作業
11日 福田館長、金津副館長、モンゴル大統領歓迎レセプション出席につき東京出席
12日 福知山市立図書館副館長大槻伸氏視察
14日 読売新聞取材
15日 豊岡聾学校40名校外授業、資母小学校3年生26名視察、文化財標柱設置作業
19日 豊岡市立新田小学校森宣孝校長他5名視察
22日 第6回企画展打ち合わせ、但馬観光連盟・但馬県民局商工課6名視察
24日 女性学級にてトールペインティング教室37名
26日 三田市文化情報紙「彩さい」スタッフ3名視察
30日 奈良県田原本町自治連合会52名視察
31日 豊岡正法寺子供会134名視察
6月6日 博物館協会による除草作業
7日 竹野町小学校PTA15名視察、横浜市環境科学研究所森清和氏視察
関西学院大学総合政策学部片寄俊秀教授視察
8日 モンゴル国大阪名誉領事館佐藤紀子名誉領事来館
11日 通路シルクロード部分の改修工事
13日 兵庫の広報を考える会5名視察
15日 氷上町立植野記念美術館長八木甫瑳子氏他3名視察
16日 網野町教育委員会8名視察
18日 両丹日々新聞取材
19日 金津副館長・大岸主事、モンゴル名誉領事館開設式典に出席
7月2日 日高町名誉親善大使坪内美樹氏他2名視察

3日 国立民族学博物館顧問梅棹忠夫先生ご夫妻、千里文化財団4名視察

国立民族学博物館の初代館長を務めた民族学者の梅棹忠夫先生と淳子夫人が視察に訪れた。福田館長から当館の建設経緯の説明を受け、金津副館長の案内で館内を見て回られた。梅棹先生は来館を記念して、サイン入りの著書「回想のモンゴル」「著作集・モンゴル研究」を当館に御恵贈頂いた。



(梅棹御夫妻を囲んで)



(館内を御覧になる梅棹御夫妻)

5日 資母小学校1年生PTA46名研修。如布区による除草作業
 7日 関宮町文化協会37名視察。金津副館長、兵庫県博物館協会総会出席
 10日 文化財パトロールを実施。兵庫県文化協会文化事業部取材
 12日 鶴岡市アマゾン民族館長山口吉夫ご夫妻視察
 17日 コープ神戸副組合長増田大成氏視察
 山形県国際交流協会企画管理部長竹谷徳夫氏視察
 山形大学大学院ジャンプ・ガルバドロッパ

氏視察

18日 関西民芸協会16名視察
 21日 展示替え作業。兵庫県野外レクリエーション指導者協議会事務局長栗木剛氏視察
 22日 展示替え作業。関西学院大学総合政策学部片寄ゼミ15名視察
 23日 全但役場戸籍担当者研修会16名視察。神戸新聞取材
 24日 園田学園短期大学29名による映像実習
 25日 日高町役場青年女性部13名視察。赤野老人会による除草作業
 全国子供会連合会桑田千照氏視察
 29日 国立民族学博物館「大モンゴル展」特別公開に奥田町長、金津副館長出席
 31日 兵庫県議会総務常任委員会24名視察
 8月2日 如布区役員による除草作業
 6日 「モンゴル通信」吉本周平ご夫妻視察
 7日 兵庫県立姫路生活科学センター所長山中庸吉氏視察
 関西電力姫路支店課長中西英昭氏他1名視察
 10日 C棟屋根ガラス交換工事
 15日 読売新聞取材
 17日 但馬教育長会12名視察
 20日 文化財パトロール
 27日 瑞穂町議会6名視察。サンテレビ・読売テレビ取材
 29日 ふるさとひょうご創生塾20名視察
 31日 篠山町教育委員会生涯学習課2名視察。国士館大学川又正智教授、青銅器調査
 9月3日 関西学院大学教授片寄俊秀ご夫妻視察
 7日 文化財調査委員会研修にて国立民族学博物館「大モンゴル展」を視察
 8日 神戸大学教授津田義雄ご夫妻視察
 10日 毎日新聞取材
 11日 八戸市博物館学芸員小笠原善範氏打ち合わせ
 13日 内モンゴル民族師範学校()布其講師視察
 14日 八戸工業大学建築工学科教授高島成侑氏視察
 15日 滑川市立博物館長松井保氏視察。毎日テレビ取材
 23日 山形市でモンゴル祭り開催(博物館資料の貸出と展示指導)
 25日 網野町立橋小学校30名校外授業
 26日 近畿民具学会10名視察
 28日 但馬観光連盟5名視察
 29日 奈良県川上村ホテル杉の湯27名視察研修
 10月1日 大岸主事、兵庫県博物館協会研修参加
 2日 毎日新聞取材

- 5日 日高町教育委員会より展示資料を借用
- 6日 三重県大内村役場7名視察
- 7日 展示替え作業
- 8日 毎日新聞取材
- 9日 神戸新聞取材
- 10日 如布神楽を博物館前で演舞
- 12日 日本モンゴル文化協会事務局長石河信昭氏打ち合わせ
- 18日 氷上町国際交流協会副会長足立一夫ご夫妻視察
大岸主事、文化財行政講座出席のため東京出張（～21日）
- 21日 旅行ペンクラブ視察。合橋小学校3年生6名が町民俗資料館を見学
- 23日 金津副館長、山形県国際交流協会主催のモンゴル祭りに展示指導
- 24日 金津副館長、八戸市博物館に99年度企画展の資料借用依頼
- 27日 朝来町観光協会8名視察。兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所5名視察
- 30日 月刊誌「金属プレス」取材
- 31日 神戸ファッション美術館10名視察
- 11月2日 瑕疵2年検査
- 5日 サンテレビ取材、神戸新聞取材。博物館協会の特産品販売所設置工事
- 6日 三和町郷土史会13名視察。関西学院大学教授片寄俊秀氏他2名視察
- 8日 博物館協会による除草作業。博物館協会総会（如布公民館）
- 9日 竹野町公民館こころ豊かな専門員本庄四郎氏視察
トライやるウィーク事業で博物館実習生10名、発掘調査4名を受入
- 13日 兵庫県議会生活文化常任委員会15名視察
- 15日 綾部市観光協会会長大槻實雄氏視察
- 16日 展示替え作業。近畿郵政局保健部資金運用課近藤和久氏視察
- 17日 日高町公民館運営審議会5名視察。但馬管内社会科歴史部会15名視察
- 20日 株式会社マザー牧場取締役伊藤重彦氏他3名視察打合
渡辺、但馬地域博物館連絡会出席
- 23日 尼崎市総合文化センター事業課長岡本健一氏視察。朝日放送にゲルを貸し出し
- 26日 金津副館長、大岸主事、外務省と駐日モンゴル大使館へ打合のため出張
- 27日 広島県福富町視察
- 28日 こころ豊かな人づくり500人委員会OB34名
- 視察
- 29日 久畑子供会37名視察
- 12月1日 神戸新聞取材
- 2日 如布老人会による葉牡丹の植栽作業
- 3日 兵庫県下県民局参事・課長研修9名視察
- 5日 加美町総務課8名視察
- 6日 企画展特別講演会「発掘調査が語る但馬国府と国分寺」開催
- 8日 図書コーナーの図書入れ替え作業（但東町中央公民館より）
- 11日 博物館協会販売ボランティア総会。兵庫県知事公室総務課長補佐二宗誠治氏視察
- 12日 加悦町役場15名視察
- 13日 神戸市民自転車愛好会会長祇園明敏氏他15名視察
- 15日 NHK、朝日放送、サンテレビ、京都テレビ、毎日新聞、読売新聞神戸新聞取材
- 19日 モンゴル情報誌「しゃがあ」西村幹也氏来館
- 22日 兵庫県子供会連合会速水順一郎氏視察
- 23日 竹野町公民館こころ豊かな専門員本庄四郎氏視察
- 1日4日 モンゴル情報誌「しゃがあ」西村幹也氏他5名来館
- 16日 温泉町おもしろ昆虫館4名視察
- 19日 日高町文化財審議会4名視察
- 20日 展示替え作業
- 28日 モンゴル大会議議員ゲレルチュルーン氏、他2名視察。神戸新聞取材
- 2月1日 出石町立弘道小学校3年生、庄屋屋敷を見学
- 9日 兵庫県教育研修所指導主事安達佳徳氏取材
- 11日 福田館長、金津副館長、大岸主事、芦屋市在住のペルシャ美術研究家ジェイ・グラッグ氏宅を訪問し資料調査
- 14日 毎日放送取材
- 15日 神戸地方検察庁総務課長補佐日樫真久氏他4名視察
- 17日 関西放送取材
- 21日 株式会社ファイル21取材
- 22日 氷上町植野記念美術館、図書館、公民館職員19名視察
- 23日 元伊勢内宮皇大神社禰宜大林八十彦氏視察
大阪高等検察庁検事長逢坂貞夫氏視察
大阪高等検察庁事務局長奥敏照氏視察
神戸地方検察庁検事正加納駿亮氏視察
神戸地方検察庁事務局長日根野谷清治氏他6名視察
- 25日 金津副館長、兵庫県博物館協会学芸担当者会

議出席

- 27日 豊岡市出土文化財センター瀬戸谷所長他5名視察
- 3月4日 兵庫県文化財保護指導員西尾孝昌氏視察
- 5日 高橋小学校2年生16名校外授業。三木市立堀光美術館館長石田安夫氏視察
大岸主事、モンゴル国出張(～12日)
- 8日 笹山町議会議長畑俊三氏他17名視察。峰山町長岡小学校2年生14名校外授業
- 11日 出石町立寺坂小学校2年生9名校外授業
八戸工業大学建築工学科教授高島成侑氏打合
- 13日 博物館研修生バヤンホンゴル県よりサラングレル招聘
- 14日 久美浜町立田村小学校教員2名視察
- 15日 久美浜町立港小学校2年生13名視察。同志社大学16名視察
- 16日 但東町高齢者学級100名視察
- 18日 モンゴル国立大学日本語学科教員ムンフツェツェグ先生ご一家視察
- 19日 短期研修生マンドハイ離任挨拶
- 21日 博物館協力会、物産販売所の開設
- 22日 毎日放送取材
- 26日 京都大学教授吉田昭彦氏視察。京都短期大学講師安達明司氏視察
但馬県民局長森野茂樹氏転任挨拶
- 27日 在ブルガリア日本大使館職員桜井英雄氏視察
- 29日 モンゴル天会議ビャジバドルジ議員視察

7. 来館者の声より抜粋

平成9年9月よりロビーにアンケート用紙を設置した。以下は平成10年度の来館者の声を抜粋したもので、博物館職員としては真摯に受け止め今後の運営に生かしたいと考えている。

- ◎ 4月2日 氷上町(女性)
珍しいものがたくさんあった。私達の町にもこのような博物館がほしい。
- ◎ 4月5日 徳島県阿南市(男性)
昨夜は但東町に泊まり、親子で訪ねて来ました。
- ◎ 4月11日 大阪府伊丹市(女性)
モンゴルの国に興味があり、一度は訪れたいと思っていたので、とても良かった。
- ◎ 4月19日 大阪府堺市(男性)
モンゴルと但東町の関係を詳しく教えてほしい。連絡してください。
- ◎ 4月21日 兵庫県三田市(女性)
今、モンゴルの子供たちが大変な目に遭っていると知りました。モンゴルの現状を知る資料もあればと思います。

次回も期待しています。

- ◎ 4月25日 兵庫県尼崎市(男性)
モンゴルを今までいろいろな意味で誤解しており、モンゴルについて勉強になりました。
- ◎ 4月26日 神戸市須磨区(男性)
展示品の配列がとても分かりやすく良かった。
- ◎ 4月26日 京都府福知山市(女性)
異文化に触れられて、とても勉強になりました。大変興味を持ちましたので、実際にモンゴルに行ってみたくなりました。積立貯金をしておきますのでご一報ください。
- ◎ 5月1日 京都府加悦町(男性)
この町にどうしてモンゴル博物館なのですか。その関連性を教えてください。料金も適当である。
- ◎ 5月3日 大阪府吹田市(男性)
展示の仕方や展示資料、見ごたえがあって良かった。
- ◎ 5月3日 京都府宇治市(女性)
博物館以外にも但東町内に観光できるところがほしいですね。
- ◎ 5月4日 大阪府交野市(男性)
博物館も2回目ですが、いつ来ても親切で、いつも美しく、雰囲気も最高です。企画展「父さんの小さかったとき」も良かった。
- ◎ 5月5日 兵庫県西宮市(女性)
数年前に内モンゴルに行っており、懐かしくて来ました。但東町にも文化的な施設ができてうれしく思います。
- ◎ 5月8日 兵庫県伊丹市(女性)
瀬戸内育ちの私にとっては、モンゴルも但東町も珍しく興味深いものがあります。遠い所ですので時々しか来られませんが、また次回まで楽しみにしております。
- ◎ 5月10日 神戸市北区(女性)
テレビでマンホールチルドレンのことを知りました。受付にでも募金箱を置いてくださればどうでしょうか。
- ◎ 5月12日 大阪市都島区(女性)
モンゴルの様子が大変良く理解できました。一度モンゴルという国に行ってみたくなりました。
- ◎ 5月15日 神戸市垂水区(男性)
ハイラルを中心に約3年半おりました。懐かしくて来ました。展示品の数々に、さすがと感心いたしました。ありがとうございました。
- ◎ 5月23日 兵庫県福知山市(女性)
子供たちにも良く分かる展示で、とても勉強になりました。これだけの内容をそろえられるのも大変だったと思います。ゆっくり見学させていただき、モンゴルがまた身近になりました。
- ◎ 5月25日 神戸市灘区(女性)
本当に見やすく、色も鮮やかでびっくりしました。モンゴルという不思議な国のことをもっと知りたくなりました。

- ◎ 5月28日 京都市中京区 (男性)
モンゴルの芸能なども見たいと思います。
- ◎ 5月31日 滋賀県大津市 (男性)
図書コーナーにモンゴルの本がたくさんあって良かった。またモンゴルに行きたくなりました。
- ◎ 6月1日 神戸市西区 (女性)
たくさんの資料を集められたのには、びっくり感心しました。大きな資料館で本当に良い見学ができました。パンフレットをもらって帰り、友人に紹介したいと思いません。
- ◎ 6月8日 東京都渋谷区 (男性)
モンゴルとの文化交流を兼ねたこの博物館の存在意義はとて大きいと思う。特にモンゴル研究を地道に続けてこられた方には、大きな刺激になると思う。
- ◎ 6月14日 京都府宮津市 (男性)
モンゴルやチベット仏教に関心があるので、大変よい博物館だと思った。また子供たちのことも考えてあり、マンガや昔の遊びなどがあって退屈しない。世界の民族楽器なども自由に触って演奏できる体験コーナーも楽しんで良かった。
- ◎ 6月15日 三重県津市 (男性)
昨年、内モンゴルに旅行したときの感動がよみがえりました。館内も静かでいい雰囲気でした。
- ◎ 6月15日 大阪府枚方市 (女性)
モンゴルの音楽を視聴できるコーナーがあれば良かった。プレーリードッグはかわいくて良かったが、狭い中庭で少しかわいそう。
- ◎ 6月18日 神戸市灘区 (男性)
貴重な資料が多く展示してあり、感激しました。美しい博物館で大変気持ち良く見学することができました。
- ◎ 6月20日 鳥取県鳥取市 (男性)
違うメンバーと3回目の訪問ですが、人に紹介したくなるような博物館です。職員の人たちにもいつも親切にしてくださっており、それが魅力の施設だと思ふ。
- ◎ 6月21日 京都府夜久野町 (男性)
但馬の但東の地にすばらしい展示品を集められた熱意と誠意に感服します。
- ◎ 6月28日 大阪市 (女性)
楽器に触れるコーナーがとて良かった。子供のころに来ていたら、人生変わっていたかも知れません。
- ◎ 6月28日 兵庫県加古川市 (女性)
モンゴルの方とお会いできなかったのが残念でした。一度は行ってみたい国です。
- ◎ 7月2日 兵庫県淡路町 (女性)
淡路は明石海峡大橋が開通して賑やかですが、但馬は私の故郷でもあり、このような施設が増えてくるといいですね。期待しています。
- ◎ 7月2日 京都府福知山市 (男性)
企画展「父さんの小さかったとき」はたいへん懐かしく良かった。
- ◎ 7月4日 兵庫県明石市 (女性)
ゲルの中に入れて暮らしの雰囲気がよく分かった。企画展ではお手玉に夢中になって遊んでしまった。
- ◎ 7月5日 兵庫県竹野町 (女性)
開館当時から一度来たいと思っていたので、念願がかない嬉しかった。
- ◎ 7月9日 兵庫県氷上町 (男性)
前に来たときよりも今回の方が、どこかが違う。さらに迫力がある感じだった。
- ◎ 7月12日 大阪府八尾市 (女性)
生のホーミーが聴きたい。
- ◎ 7月18日 兵庫県明石市 (女性)
馬頭琴の教室などがほしい。モンゴルの民族衣装を試着できるコーナーもほしい。マンガのコーナーが良かった。
- ◎ 7月19日 大阪府茨木市 (女性)
プレーリードッグを見て娘(1才3カ月)は大喜びでした。企画展では楽しい話を聞かせて頂いたり、ゲームをしておもちゃを頂きとても楽しい一日でした。
- ◎ 7月19日 兵庫県伊丹市 (男性)
かつてのモンゴル大帝国の広さと遊牧民の生活に感動した。
- ◎ 7月20日 兵庫県姫路市 (男性)
モンゴル語をテープか何かの形で聞いてみたい。
- ◎ 7月25日 大阪府豊中市 (女性)
8月にモンゴルに行くのですが、ゲルの内部を見学できたり、草原のイメージがよく分かりました。
- ◎ 7月28日 但東町 (女性)
クーラーがきいて涼しい。静かな音楽と図書コーナーがいい。
- ◎ 7月28日 兵庫県尼崎市 (男性)
世界の楽器に触れて遊べたのが良かった。大阪からは遠かった。モンゴル相撲の衣装がほしい。
- ◎ 8月2日 東京都三鷹市 (男性)
昨日、大阪のモンゴル展を見てから、こちらに寄りました。新聞で知っていましたが、遠くてなかなか来れません。もう少し便利な所だと、もっともっと人が見に来てくれると思うのですが……。でも、大阪よりも圧倒的に資料が多いし、いいものが多いですね。モンゴル展はかなりお金がかかっているようだったけど、東京のモンゴル仏教展のほうが中身は上だと思ふ。応援しますので、こちらにも全国的に宣伝をしたらいいと思います。
- ◎ 8月7日 千葉県関宿町 (女性)
プレーリードッグがかわいい。ゲルに住んでみたい。
- ◎ 8月8日 愛知県豊田市 (男性)

家族全員が大変感動を受けて帰ることができました。

- ◎ 8月11日 神戸市西区 (男性)
モンゴル音楽でホーミー演奏家を呼んでのイベントを企画してほしい。
- ◎ 8月14日 京都府舞鶴市 (女性)
モンゴルの文化と国民について、更なる詳細な展示もお願いします。
- ◎ 8月15日 横浜市 (女性)
2回目なので感じたのですが、現在のモンゴルの人たちの生活も知りたいと思います。特に女性がどのような生活と社会的な役割をもっているのか、但東とモンゴルとの交流について等。
- ◎ 8月15日 大阪市 (男性)
仕事の関係でモンゴルに暮らしていたので、懐かしくて訪ねてきました。
- ◎ 8月15日 兵庫県小野市 (女性)
とても勉強になりました。モンゴルに行った気分になりました。企画展の東井義雄先生に感動しました。
- ◎ 8月16日 神戸市長田区 (男性)
昨年モンゴルに出掛けて数日ゲルに宿泊していましたが、今でも住みたい住みたいと思っています。すごく懐かしい思いです。
- ◎ 8月16日 京都府丹後町 (男性)
チベット仏教のコーナーが良かった。
- ◎ 8月16日 東京都東村山市 (女性)
以前からモンゴルに関心を寄せていました。モンゴルに行きたいと思いつつも機会がなかったのですが、偶然こちらの博物館を知ることができて嬉しくて仕方ありません。ぜひ色々な情報を送って下さい。
- ◎ 8月16日 兵庫県豊岡市 (男性)
慌ただしい世の中、ゆっくり落ち着いたひとときでした。東井義雄先生の生き方が良かった。
- ◎ 8月18日 京都府亀岡市 (女性)
とてもきれいでした。ゲルの中は暗かったけど、生活の様子がよく分かりました。お土産もあり、トイレもきれいでしたし、お花もきれいでした。
- ◎ 8月18日 兵庫県水上町 (女性)
皆さんで但東町を大切に育てていることが分かりました。トイレのお掃除(丁度、お掃除中に入りました)も、心を込めて丁寧にされており、こういうところに感心しました。展示内容は勿論ですが、いろいろと見習いたいことが沢山ありました。
- ◎ 8月20日 兵庫県伊丹市 (女性)
プレーリードッグくれませんか?とてもかわいい。
- ◎ 8月21日 大阪市住之江区 (男性)
切手やコイン、絵画の展示が特に良かった。ゲルの中も本当に遊牧のところへ訪れた気持ちになった。
- ◎ 8月23日 福岡市早良区 (男性)
知人から聞いて車で来ました。初めてでしたが、常設展も企画展も良かった。
- ◎ 8月24日 京都市北区 (男性)
去年、国道の看板を見て気になって来ました。来年モンゴルへ行きたいと思っていたので、その資料を購入することができた。
- ◎ 8月25日 青森県八戸市 (男性)
明日、関空からモンゴルに行くので勉強しに来ました。ある程度のイメージは分かりましたが、食事のことが心配です。大分、理解できたと思います。頑張って行きます。
- ◎ 8月25日 大阪府箕面市 (女性)
FMCO-CO-LOを聞いてきました。大阪の民博で開催している大モンゴル展よりとてもいいよ。ゲルの中が素敵でした。とってもきれいな建物で、中で仕事している人たちの顔が浮かんできそうです。
- ◎ 8月30日 兵庫県高砂市 (女性)
大変良かったので友人を誘って、また来ることを楽しみにしています。
- ◎ 8月30日 兵庫県村岡町 (女性)
何回来てても飽きないところです。次はモンゴルの映画もゆっくり見れるように来たいと思っています。
- ◎ 8月30日 京都府舞鶴市 (男性)
プレーリードッグがかわいらしい。何故、但東町でモンゴルなのか知りたい。
- ◎ 9月3日 大阪府松原市 (男性)
一つ一つの展示品にもう少し詳しい解説をつけてほしい。
- ◎ 9月5日 大阪府豊中市 (男性)
芝生の中にあつた七人の小人は何だったのでしょうか。
- ◎ 9月8日 兵庫県姫路市 (女性)
喫茶コーナーがあればと思いました。
- ◎ 9月8日 但東町 (男性)
博物館で今年のモンゴル夏祭りはしないのでしょうか。
- ◎ 9月11日 青森県八戸市 (男性)
博物館の運営は本当に難しいと思いますが、よくやっている方だと思います。
- ◎ 9月11日 宮城県石巻市 (女性)
念願かなってようやく訪ねてきました。但馬空港を利用したら比較的早く着きました。
- ◎ 9月12日 岡山県岡山市 (男性)
ミュージアムグッズとしてモンゴルの伝統的なアクセサリなども土産として置いてほしい。
- ◎ 9月13日 青森県八戸市 (男性)

2回目の訪問ですが、今回は福岡市での会議の帰りに立ち寄りました。

- ◎ 9月15日 兵庫県竹野町 (女性)
国道の案内看板が少なく、車を運転していて不安になった。もっと大きな看板を設置しても良いと思う。プレーリードッグがかわいく、子供たちが大喜びでした。触ってみたいと言っていました。ゲルの中にも入れて大感激の子供たちでした。
- ◎ 9月20日 大阪府豊能町 (男性)
モンゴルの古い歴史も興味深いが、旭鷲山などモンゴルの人達の様子や現在のモンゴルの姿も知りたいところです。
- ◎ 9月21日 神戸市西区 (女性)
受付の女性方は美人で笑顔でした。説明して下さった職員の方にもご親切にさせていただきました。
- ◎ 9月21日 兵庫県五色町 (女性)
モンゴルの宗教のコーナーはちょっと恐かった。
- ◎ 9月21日 神戸市西区 (男性)
天橋立の帰りに寄りました。じっくり見学することができ、また親切に説明をしていただいた。
- ◎ 9月23日 大阪府高槻市 (女性)
モンゴルの人達の食事のことが良く分かった。来て良かった。
- ◎ 9月26日 愛知県名古屋市長 (男性)
なかなか頑張っている博物館だと思います。集められた人の熱意が感じられます。
- ◎ 9月26日 鹿児島県 (女性)
同業者ですが、地方での運営はなかなか大変なことだと思いますが、今後も宜しくお願いします。
- ◎ 9月26日 石川県金沢市 (男性)
知人から聞いて車で来ました。後でシルク温泉に寄ってから帰ります。
- ◎ 9月27日 京都府峰山町 (男性)
モンゴル旅行などの企画を組まれてはいかがでしょうか。博物館の中がとてもきれいにしてあり気持ちの良い感じでした。
- ◎ 9月27日 兵庫県山崎町 (女性)
モンゴルの雑貨を購入できるようになればと思います。
- ◎ 9月28日 兵庫県三木市 (女性)
以前よりモンゴルに行きたいと思ってましたが、来館して博物館を見学して尚一層その思いが強くなりました。久しぶりにのんびりした気分に入ることができました。
- ◎ 9月28日 大阪府茨木市 (女性)
モンゴルについての質問コーナー等があれば良いと思います。建物はきれいです。
- ◎ 9月29日 大阪府茨木市 (女性)
モンゴルについて詳しくレクチャーしていただける人と

部屋があればと思います。建物の内外はとてもきれいですね。

- ◎ 10月4日 京都府京田辺市 (男性)
モンゴルについての知識はほとんどありませんでしたが、よくまとめられて展示してあると同時に解説をしていただき、よく理解することができました。有り難う御座いました。
- ◎ 10月6日 神戸市長田区 (男性)
想像していたよりも充実した内容と詳しく解説をしていただき、自治会の参加者全員が喜んでおりました。短い時間での見学だったために職員の皆様にご迷惑をおかけしました。
- ◎ 10月6日 神戸市北区 (男性)
千里にあります民族学博物館の大モンゴル展にも行きましたが、こちらの方が内容も建物も良くできていました。田舎にもいい博物館があることを知り、これからは是非頑張ってください。
- ◎ 10月11日 兵庫県三田市 (女性)
軽食喫茶や土産物売場を設置してほしいと思います。
- ◎ 10月11日 京都府久美浜町 (男性)
思った以上に充実した展示資料で驚きました。
- ◎ 10月11日 京都府綾部市 (男性)
11月中旬にロータリークラブで来る予定でしたが、視察のために先に見学しておきました。来年は7月にウランバートルに行きたいと思います。
- ◎ 10月11日 京都府綾部市 (女性)
全体的にまとまっており良かった。学生たちにも社会勉強となり、また孫たちも連れて来ようと思います。
- ◎ 10月13日 兵庫県加古川市 (女性)
モンゴルから来ていた研修生ビャンバラグチャーさんに館内を説明していただき、モンゴル人の見たモンゴル世界を理解することができて感激しています。
- ◎ 10月17日 神戸市兵庫区 (女性)
ゲルの入り口で頭を強打してしまいました。頭上注意の張り紙がほしい。でもゲルの中の雰囲気はとても良かった。
- ◎ 10月18日 奈良県奈良市 (女性)
思いがけなく馬頭琴コンサートを聞いて感動しました。単調な音色の中に深い響きがあるのに驚きました。どうして音が出てくるのか不思議でした。また機会があれば聞いてみたいと思います。
- ◎ 10月22日 島根県大田市 (女性)
朝早く出発し、やまびこに宿泊しながら訪ねて来ました。
- ◎ 10月24日 兵庫県豊岡市 (男性)
青銅器や銀製品にいいものが多いですね。
- ◎ 10月25日 兵庫県姫路市 (男性)
こんな場所にモンゴルの博物館があること、そのものが驚きでした。丁寧な展示で非常に分かりやすかったと思

います。

- ◎ 10月30日 兵庫県加美町 (男性)
開館時から出掛けてみたいと常々思っていました。その機会を得ませんでした。やっと念願かなって今日見学することができました。モンゴルとは古くより何らかのつながりがあったことを知り、何か身近なものを感じました。
- ◎ 11月2日 神戸市中央区 (男性)
モンゴル民族音楽のホーミーを生で聞けるといいですね。
- ◎ 11月3日 京都市中京区 (女性)
展示してある資料が多く、見ごたえがあった。
- ◎ 11月3日 兵庫県尼崎市 (男性)
モンゴル語のあいさつや単語などをテープなどで放送してほしい。
- ◎ 11月3日 京都府網野町 (女性)
パオがすごかった。色々なものあって、何か楽しい雰囲気。博物館の中もきれいで、全体的に凝っていて良かった。今度はシルク温泉に行きます。
- ◎ 11月10日 兵庫県明石市 (男性)
日本の援助を必要としているモンゴル国の現状について、遊牧民、草原の生活、ウランバートルなどの都会生活の相違など、社会主義より自由経済に変化した後の現状も何らかの形で展示すれば良い。
- ◎ 11月12日 大阪府岸和田市 (女性)
モンゴルの音楽、「うい〜」って言っているやつ、もっと知れたかったです。あと玩具の使い方を教えてくれるといいと思いました。
- ◎ 11月14日 但東町 (女性)
とても落ち着く雰囲気、いるだけで和むことができ大変満足しました。また来ようと思います。
- ◎ 11月14日 大阪府羽曳野市 (女性)
モンゴルだけを取り上げて、大変興味深く思いました。服の販売もあったら良かったのですが！
- ◎ 11月14日 大阪市城東区 (女性)
モンゴルの衣装、その他の雑貨を販売してほしい。
- ◎ 11月15日 兵庫県和田山町 (男性)
モンゴルの展示品は素晴らしかった。よくもここまで集められたものと感心します。
- ◎ 11月15日 兵庫県青垣町 (男性)
今朝のサンテレビ「ふるさとステーション」を見て、子供、孫を連れて来ました。特に小学校の孫がモンゴルの生活様式を勉強していますので、できれば行事等があればご面倒でも連絡いただければ幸いです。
- ◎ 11月16日 兵庫県豊岡市 (男性)
東井先生は小学生時代に教えを受けたことがあり、誠に感無量でした。先生のご冥福を祈ります。豊岡から近いところにあるのに、町が著しく発展しているのに驚きました。自然と共生している姿は良いものです。
- ◎ 11月16日 滋賀県栗東町 (女性)
見に来て良かった。ドキドキした。
- ◎ 11月20日 兵庫県尼崎市 (男性)
ゲルをはじめ、モンゴルの様々な展示物が収集されていてとても興味深かった。もっと阪神方面からのお客様を呼べると思います。
- ◎ 11月22日 福島県石川町 (男性)
この博物館をもっと拡大して、モンゴル村として天橋立と一体とした旅行商品にしたらいかがですか。登尾トンネルでより近くなり、北近畿が関西に代わって西日本の中心になれば、西日本と東日本とのメインルートになるものと思います。
- ◎ 11月22日 神戸市北区 (女性)
時間が短く、もっとゆっくり見たいと思いました。女性の服がとてもきれいでした。馬乳酒を飲む企画とかやってください。
- ◎ 11月22日 神戸市 (男性)
ホーミーの実演をすべきである。
- ◎ 11月22日 但東町 (男性)
中庭のプレーリードッグがいなかったの、どうなったんでしょうか。見たい、どうしても見たい！次に来るときは見れたらいいと思います。
- ◎ 11月22日 兵庫県日高町 (女性)
とてもおもしろかった。また友達を連れて来ようと思います。
- ◎ 11月22日 京都市左京区 (女性)
自動販売機の周辺にもっと椅子がほしい。歩き疲れているので。
- ◎ 11月22日 神戸市 (女性)
モンゴルの展示は大変おもしろかった。現代モンゴルの様子などももっと知りたいと思いました(経済・教育・婦人の地位など)。
- ◎ 11月23日 兵庫県三田市 (女性)
もう一度来てみたいと思う博物館です。
- ◎ 11月24日 兵庫県 (男性)
馬乳酒やチーズもぜひ試飲、試食させてください。お願いします！！
- ◎ 11月26日 兵庫県加古川市 (女性)
展示品に感動したため、もう少し多方面に宣伝しても良いのではないかと思います。
- ◎ 11月28日 京都府福知山市 (男性)
知人がモンゴルに居たので話を聞いておりましたが、今日の見学は大変良かった。私は満州ハルピンに居りました。

- ◎ 11月28日 兵庫県豊岡市 (男性)
近くに住んでいながら初めて来ました。新聞ではたびたび企画展や行事の紹介などを見ますが、すばらしい内容で満足しました。
- ◎ 11月29日 京都市 (男性)
モンゴルはあまり馴染みがなかったので、良い勉強になりました。
- ◎ 11月29日 京都市 (男性)
ゲルに入れたのが良かった。モンゴルの絵も初めて見て感動しました。プレーリードッグは冬はどこかに行っているのでしょうか。
- ◎ 12月5日 大阪府豊中市 (男性)
もう一度来たい!
- ◎ 12月5日 大阪府八尾市 (男性)
大変結構でした。モンゴルと但東町との関係がもう一つ分かりかねました。
- ◎ 12月10日 京都府福知山市 (女性)
モンゴルの家の中に入れて良かった。また友達を連れて来たいと思いました。
- ◎ 12月12日 兵庫県西脇市 (男性)
あの留学生の写真がほしかった。但東町は新しい道路ができて、交通の要所になったし、これからも何回も訪れると思う。シルク温泉も良かったけれど、職員の対応が控えめすぎる。博物館の展示方法もよく分からなかったりして、箱物としては今一つ不満足だった。ただ、森がきれいだし、川もきれいだらうから、釣りをするとこがあれば良かった。国道426号と482号はきれいな道になってうれしい。
- ◎ 12月12日 京都府夜久野町 (男性)
但東町の取り組みに感動しました。
- ◎ 12月17日 大阪府大東市 (男性)
以前に内モンゴルには行ったのですが、モンゴル博物館に来てから外モンゴルにも行きたくくなりました。
- ◎ 12月17日 大阪府交野市 (女性)
もっとモンゴルの展示を充実させた方がよい。
- ◎ 12月20日 兵庫県夢前町 (女性)
モンゴルの映画が長い。10~20分程度にしてほしい。
- ◎ 12月26日 京都府八幡市 (男性)
ホーミーを直接聞いてみたい。
- ◎ 12月27日 大阪府高槻市 (男性)
モンゴル民族と出会った感じ。非常に良かった。また来館したい。ありがとう。
- ◎ 12月29日
ロビーに置いてある但東町紹介ビデオのなかで携帯電話のベル音がはっきりなしに鳴っているが、とて迷惑です。日常を思い出して落ち着かないので、すぐに変更すべきである。
- ◎ 1月4日 兵庫県竹野町 (女性)
今まで見たことがないものばかり。モンゴルの人は電気がない暮らしをしているが、とても頑張ってる暮らししている様子が目に浮かんできました。勉強になってとても良かった。
- ◎ 1月4日 兵庫県日高町 (女性)
但東町とモンゴルとの結びつきや国際交流についても知りたいと思いました。現在のモンゴルの様子もよく知りたい。プレーリードッグが見られなかったので、今度は見たい。モンゴルのお菓子も食べてみたい。
- ◎ 1月15日 兵庫県竹野町 (男性)
すばらしい。よくもこれだけ集められたものですね。但馬国府と国分寺展も大変良かった。
- ◎ 1月15日 神戸市東灘区 (女性)
ゲルがかわいかった。お土産などをもっと充実してほしい。モンゴル切手など……。
- ◎ 1月26日 兵庫県香住町 (女性)
友人3人で来たが、日本の相撲に似たものがモンゴルにあることを知り一段と興味を持った。この町が好きになったので、また来ます。
- ◎ 2月6日 兵庫県加西市 (男性)
雪の中でゲルの生活を楽しんでみたい。モンゴルの雄大さを感じられて良かった。
- ◎ 2月6日 兵庫県青垣町 (女性)
小さな子供連れでしたので、ゆっくり見ることができなかった。子供が遊ぶ場所を作ってほしい。
- ◎ 2月28日 神戸市須磨区 (男性)
団体が来て、うるさくてゆっくり見られなかった。
- ◎ 3月5日 但東町 (男性)
ボタン式の説明装置があると一層理解が深まるものと思います。
- ◎ 3月5日 但東町 (女性)
チンギス・ハーンの映画がとても感動的でした。モンゴルに一度行ってみたい。
- ◎ 3月11日 京都府福知山市 (女性)
人骨の装飾品に驚いた。展示物にはとても興味がわいた。今度はビデオをゆっくり見に来たいと思います。
- ◎ 3月11日 京都市右京区 (女性)
モンゴルの人と話をしたい。モンゴルに行きたくなった。プレーリードッグに会いたかった。
- ◎ 3月11日 京都府福知山市 (女性)
モンゴルの文化や仏教など、大変興味があったのでゆっくりと楽しむことができました。
- ◎ 3月13日 京都市山科区 (男性)
歴史を大切に、歴史を土台にして21世紀の平和を人々との結びつきで大切に。
- ◎ 3月18日 京都府丹後町 (男性)

チンギス・ハーンの映画はモンゴル帝国の全体像を知ろうと役に立った。そのうえで数々の展示品を見ると、それぞれに親しみがわき、とても充実した時間を過ごせたという気持ちになった。

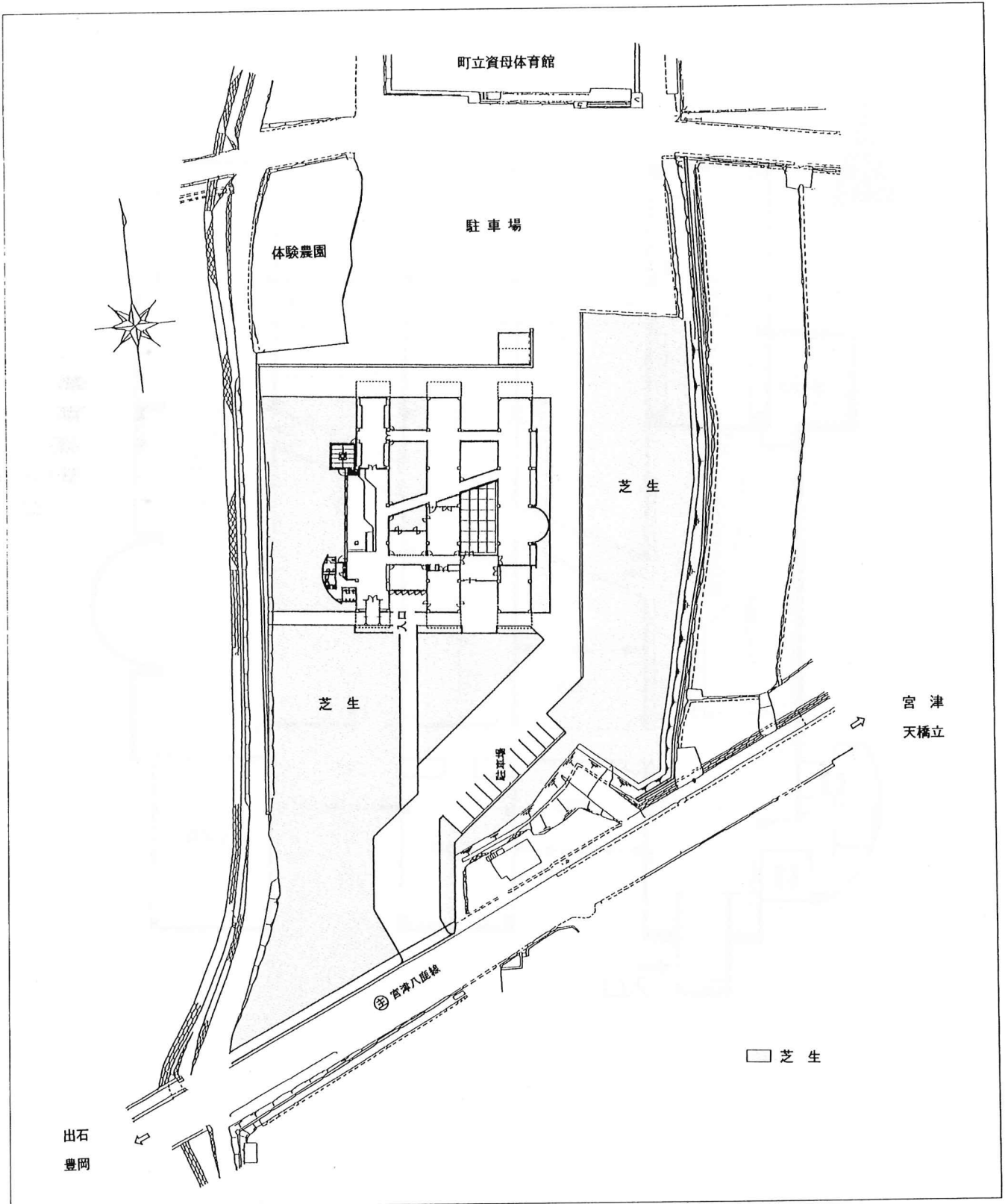
- ◎ 3月19日 兵庫県加古川市（男性）
モンゴル民族が大自然の一部として生きる生きざまがよく理解できた。
- ◎ 3月20日 兵庫県宝塚市（男性）
将来、一度モンゴルを訪ねたいと思っています。展示はとても参考になりました。モンゴルに関する文献をもう少しよく収集していただければと思います。最新のモロ辞書も出ていますよ。
- ◎ 3月20日 兵庫県西宮市（女性）
土産話として持ち帰り、また子供たちと一緒に日本とモンゴルとの共通点や相違点などの文化を学びにまた来たいと思います。また、知人にも教えてあげたいと思います。
- ◎ 3月21日 大阪市淀川区（男性）
ホーミーはとても気になる音楽です。
- ◎ 3月22日 兵庫県氷上町（女性）
モンゴルの情報発信基地として大いに期待しています。
- ◎ 3月22日 兵庫県氷上町（女性）
私のところにもモンゴルの子供が来たことがあり、モンゴルには以前から興味がありましたので、この施設に来て様々なことを知ることができ、大変良かったと思います。
- ◎ 3月24日 神戸市西区（女性）
モンゴルの楽器などがもっと見たかった。
- ◎ 3月27日 京都府宮津市（女性）
モンゴルのことについて職員の方に色々とお話を聞かせていただき、とても興味深く楽しかったです。どうもありがとうございました。今度は最初から詳しくお話を聞いてみたいです。また来ます。
- ◎ 3月28日 大阪府豊中市（男性）
人間が展示品の前に近づくとセンサーが働いて、簡単な説明や音楽が流れれば良いと思います。シニアの割引があればありがたい。
- ◎ 3月28日 大阪府枚方市（女性）
展示品などは初めて見るものばかりで、興味深かったです。きれいで「ほっとする」空間が良かったです。展示品を近くで見れたのでいいのですが、欲を言えば拡大鏡か老眼鏡など貸し出しがあればとなあ……と思いました（老眼鏡を忘れましたので……）。
- ◎ 3月30日 京都府福知山市（女性）
あまり知らなかったモンゴルのことがよく理解できて良かった。特にゲルは最高ですね。これから少しモンゴルのことを勉強してみたいです。

8. 施設概要

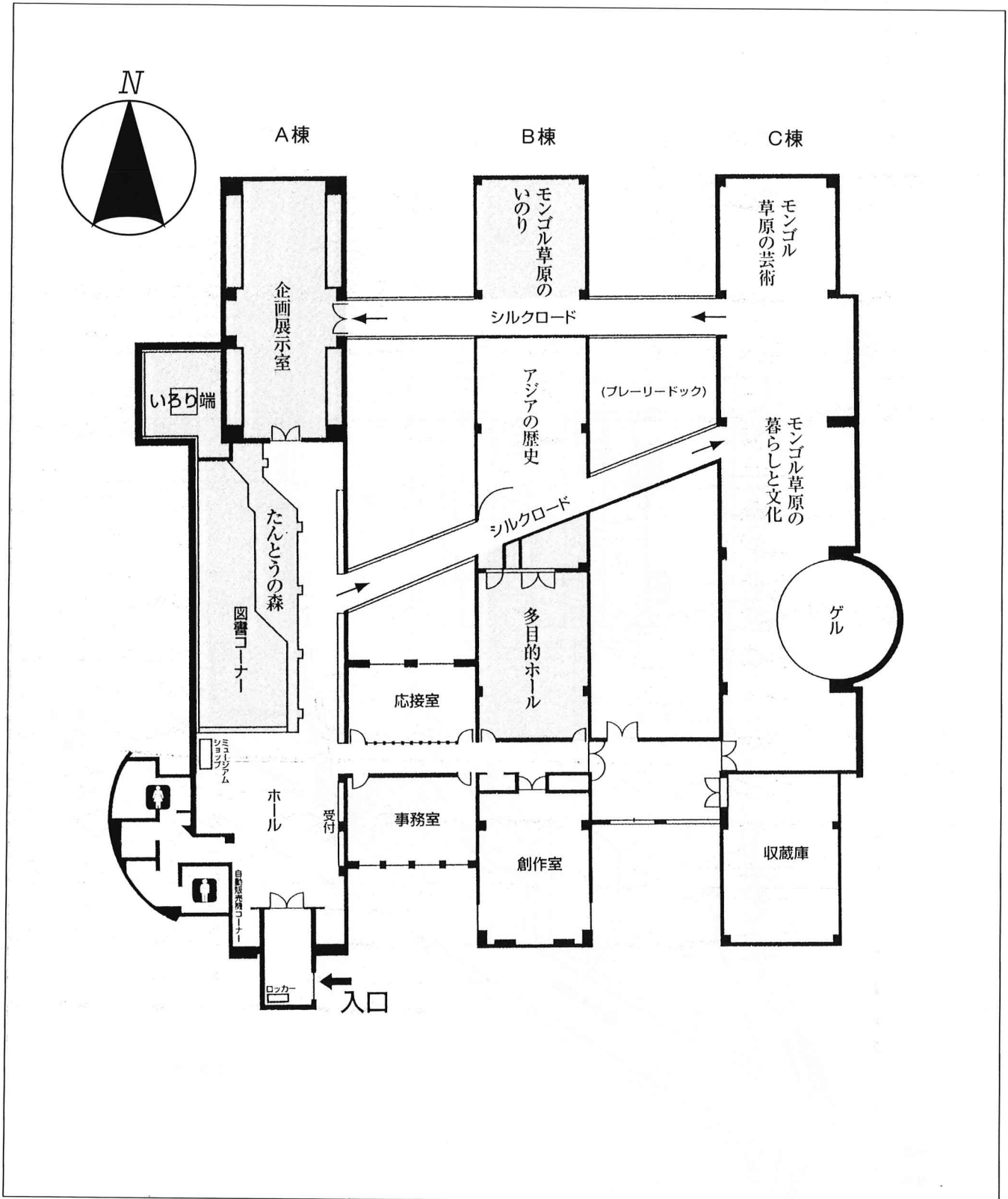
(1) 建築概要

位置	兵庫県出石郡但東町中山711
基本設計	建物 井上良一建築設計事務所 展示 株式会社さんよう
実施設計	建物 井上良一建築設計事務所 展示 株式会社さんよう
工事施工	建物 川嶋・井田・マルテン特別共同企業体 展示 株式会社さんよう
工期	建物 着工 平成7年12月14日 竣工 平成8年8月12日 展示 着工 平成8年5月7日 竣工 平成8年10月30日
敷地面積	8260.88㎡
建物面積	999.65㎡
構造概要	鉄筋コンクリート造 フッ素樹脂塗装鋼板瓦葺葺 立体トラス鉄骨（KTトラス）
各室面積	玄関ホール・たんとうの森 211.6㎡、多目的ホール 56.5㎡、荷解室 33.3㎡、事務室 33.3㎡、応接室 28.0㎡、創作室 48.2㎡、展示室「東アジアの歴史」75.7㎡、展示室「モンゴル草原の暮らしと文化」206.8㎡、展示室「チベット仏教」37.7㎡、企画展示室 74.4㎡、シルクロード(回廊)① 13.3㎡、シルクロード(回廊)② 13.3㎡、シルクロード(回廊)③ 12.6㎡、シルクロード(回廊)④ 12.6㎡
建物規模	平屋建て 東西41.8m 南北42.5m 地上高9.0m
仕上げ	〈外装〉 復層吹付 〈内装〉 床 : モルタル下地タイルカーペット貼 壁 : 山本窯業化学テラックス、石膏ボード、化粧合板 天井 : 杉小幅板、岩綿吸音板貼り

(2) 配置図



(3) 平面図



平面計画 本町は但馬ちりめんを織って京都に運んだ歴史から、町おこしのネーミングに「シルクロード」を使
ってきた。細長い建物を3棟並べ、各棟を結ぶ回廊を「シルクロード」と名付けている。平面計画は
町おこしのネーミング「シルクロード」を経由して多様な文化比較ができるよう設計されている。ま
た、外観については、大草原を飛び立つ鳥をイメージしている。

9. 利用案内 (平成10年度)

開館時間 9時30分から17時まで (入館は16時30分まで)

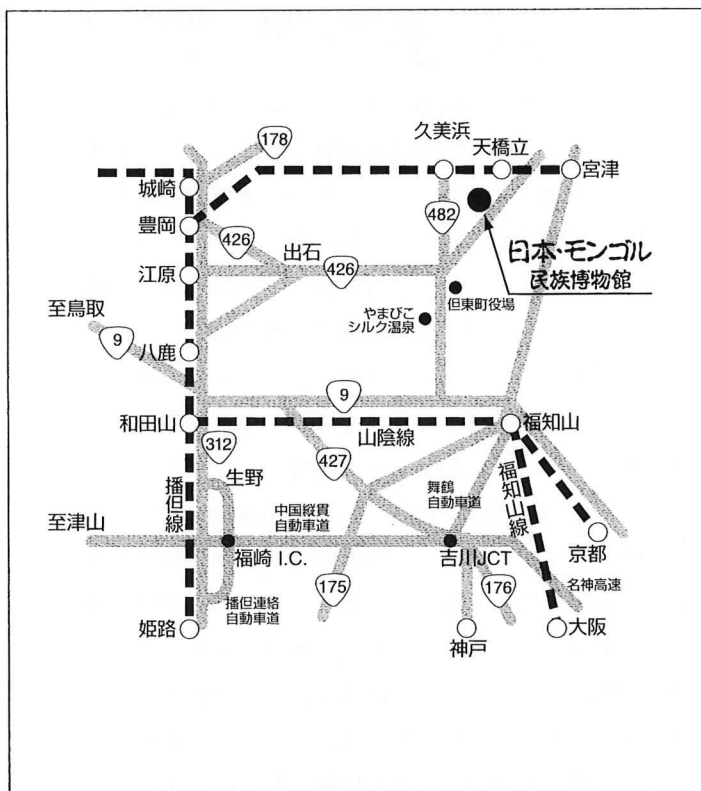
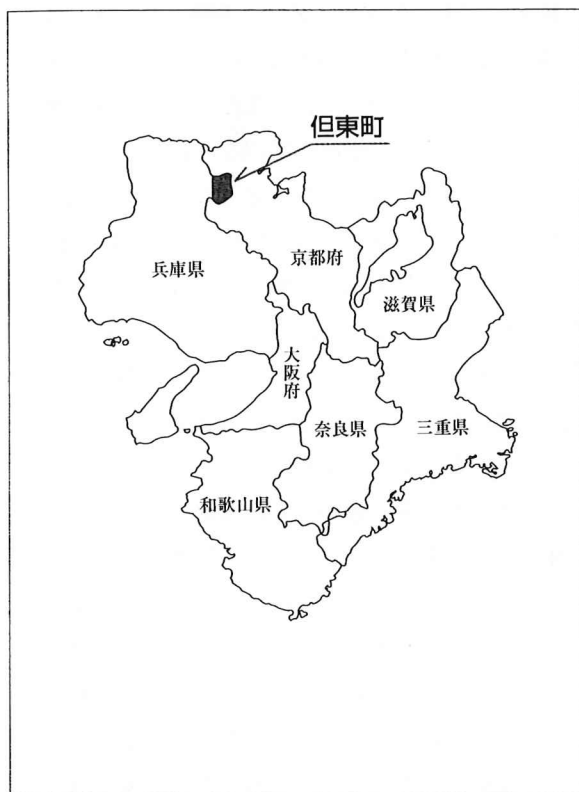
休館日 水曜日 (4月15日、4月22日、4月29日、12月23日は開館)
年末年始 (12月28日～1月3日)
展示替え及び燻蒸による臨時休館

観覧料 一般 500円 (450円)
高校・大学生 300円 (250円)
小学・中学生 200円 (150円)

※ カッコ内は20名以上の団体の場合

観覧料の減額 但馬ファンクラブ (一律100円の減額)
J A F 協定 (一律50円の減額)
65歳以上のかたは観覧料の半額
身体障害者 (介助者を含む) のかたは観覧料の半額
兵庫県内の小学・中学生はココロカードの提示により無料
兵庫県内の小学・中学生を引率する教員は無料
但東町民はすべて無料

10. 交通案内



車の場合 神戸市内から (所要時間: 2時間)

神戸市内 ⇒ (中国自動車道) ⇒ 吉川JCT ⇒ (近畿舞鶴自動車道) ⇒ 福知山IC ⇒ (国道9号線) ⇒ 上川口 ⇒ (国道426号線) ⇒ 登尾トンネル ⇒ 但東町 ⇒ モンゴル博物館

※福知山市と但東町に位置している登尾トンネルは平成10年11月15日に新登尾トンネルが供用開始となり、冬季間における交通アクセスも格段と便利になった。

J R の場合 最寄り駅 JR山陰本線 福知山駅 (連絡バスなし/タクシー利用)
和田山駅 (連絡バスなし/タクシー利用)
江原駅 (連絡バスあり/出石で乗り換え)
豊岡駅 (連絡バスあり/出石で乗り換え)

飛行機の場合 大阪国際空港 ⇒ 但馬空港 ⇒ (連絡バスあり/出石で乗り換え)
(レンタカー利用)

あとがき

■ 春になると、だれの胸にも「希望」という名のそよ風が吹く。日本の「年度」替わりが4月1日であるのには、深い理由があるらしい。前年度の施設運営や学校の成績が思わしくなかったとしても、4月には何食わぬ顔で、同じスタートラインに並ぶことができる。「去年は大変忙しかった」「去年は難しい運営だった」などと喜んでみたり、しょげてみたり……。自然界でも春は萌える季節であるのだから、博物館も新しい芽を出せるよう「希望」の種を蒔きたい。3月いっぱい博物館の森脇先生と木村さんが交替した。開館時から一緒に働いてきただけに残念であるが、森脇先生の名案内役は見学者に大好評でリピーターも多かった。木村さんの受付での接遇は多くの方に好印象を与えてくれた。お二人とも博物館の運営からイメージ作りまで大きく貢献していただき、これからも博物館OB・OGとして厳しいご指導をお願い申し上げたい。近年、当館が雑誌などでユニーク博物館として紹介される機会が多くなってきた。特に个性的な博物館にしようと思って活動しているわけではなく、これからの時代に適応できる博物館という器はどうすべきかを考え、行動に移したことが、結果として个性的に見えたのであろう。平成11年度は（仮称）伝承文化体験交流館の建設に着手することになり、博物館北側駐車場側に平成12年度初頭までに完成する予定である。民俗資料の展示、体験交流室、収蔵庫を備えた施設である。7月には博物館のホームページを開設する予定でもあり、平成11年度は積極的な展開を心掛けてみようと思っている。兵庫県の東端、但馬の山間の町に移り住んで、この春でまる4年になった。環境の良い田舎に住んで、世界を眺めながらの博物館運営もまた楽しいものである。（金津匡伸）

■ 3月5日から8日間、モンゴルに行ってきました。一昨年は夏のモンゴルを体験し、今回は冬のモンゴルを体験しました。とにかく寒いし、肌が痛い。しかし、緑の草原は真っ白に変わり、上を見上げると相変わらずのモンゴリアンブルーの空が広がっていた。「冬のモンゴルもいいなあ」としばしの間、ぼーっと辺りを眺めていました。モンゴルに関する仕事について3年

が経過しました。最初のころはただ業務をこなすだけの毎日でしたが、最近はモンゴルについて少しずつ考えるよう努めてきました。しかし、まだまだ「モンゴルについて」「国際交流について」ははっきりしたものが自分の中に見えてきません。一体いつになったら見えてくるのでしょうか。今年度を振り返ると仕事に慣れてきたせいか手を抜いた仕事が多かったように思う。就職した頃のように純粋で一生懸命な心を取り戻したいと思うこの頃です。（大岸勝也）

■ 平成8年11月3日オープン以来早くも2年と5カ月が経過し、入館者も9万人近くを数え、その数の多いか少ないかはさておいて、ご来館の方々に深く感謝しています。当初から館内の案内を主に受け持っていました。前年号にも雑感として記しましたが、最初の頃は展示品の単なる紹介・説明するだけで精一杯でした。ようやく1年を過ぎる頃よりどうにか自分なりに型や流れがつかめるようになりました。といっても来館者の雰囲気によるところが大きく、当方も生身の凡人故に即応していくのになかなか大変でした。満足していただく案内をするためには、色々な面での学習に迫られました。有り難いことに勤めること自体が自分自身の生涯学習につながるという仕事をするなかで、次のような3点について気をつけるようにしました。まず1点として、多数の人々との出会いを大切にすること。どちらからお見えになったかなどをお聞きしたりして会話を進めていきます。次いで2点としては案内しながらできれば2・3回の笑いの場が楽しいひとときになるよう心掛ける。3点目としては、おこがましいことですが、お帰りには何かを得られ、「来館してよかった」と思っていただけのように努めてきました。さて、このような枠組みで案内してきましたが、今頃になって遅まきながら現状のような案内で済ませては駄目だとの思いを強く感じるようになりました。折角のご来館の機会を通して、今少し内面的にもモンゴルを知っていただこうとの思いです。かのモンゴル高原において雄大な自然のもとで天と地を敬い、自然からの恩恵に感謝しながら心豊かな生活を楽しむ遊牧の人たちについて（ただ単なる器物にまつわ

ることだけに止まらず、長い年月にわたり育み定着してきた貴重な生活文化や) その心情などに触れるような紹介ができればと思いますこの頃です。

(森脇博亮)

■ また一年が過ぎようとしている。博物館勤務も三年目となった。一般的に、一年より二年、二年よりも三年というように、勤務の年数が長くなれば、それに準じて知識も増えていくはずである。が、恥ずかしながら、私においてはこの公式はあてはまらないようだ。この一年でどれだけ前進できたのかと自分に問いかけてみるが、その答えはいささか疑問である。東井先生の企画展や「トライやるウィーク」の中学生受け入れ等の折りには、沢山の方にお世話になり、貴重な経験をさせていただいた訳だが、反省すべき点多々である。これらの反省を無駄にすることのないよう、これから勤めていきたい。

(渡辺律子)

■ 今年度は少し落ち着いた一年だったように思います。仕事上、私は受付の席に座っていることが多いので、来館者の方々とのおふれあいをいつも感じております。ここ但東町は冬に雪も降り、積もります。そんな日は、道路を行き交う車も少なくなります。それでも中には、雪の降るなかを遠方から博物館だけを目的として来られる方もおられ、そういう姿を拝見していると、本当に嬉しく思い、お茶の一杯も出して差し上げたい気持ちになります。また、地元の小・中学生たちも博物館に親しんでくれ、最近では、入るときに受付の方を見て元気よく挨拶してくれます。そんな姿はとても微笑ましく思います。残念ながら、私は今年度で博物館とはお別れですが、何かほかの形でお手伝いできればと思います。ありがとうございました。

(木村美智子)



(博物館スタッフ)

日本・モンゴル民族博物館年報第2号

Japan Mongolia Folk Museum

平成11年4月1日発行

〒668-0345 出石郡但東町中山711

TEL(0796) 56-1000

FAX(0796) 56-1022

711 Nakayama, Tanto-Town, Hyogo 668-0345 JAPAN

発行／日本・モンゴル民族博物館

印刷／嶋屋印刷

〒668-0233 出石郡出石町田結庄86

TEL 0796(52)3408 FAX 0796(52)6000